

# 四日市大学社会連携報告書

2022 年度版  
(令和 4 年度)

# 目 次

はじめに	.....	1
<b>1 社会連携センターの活動</b>		
1-1 社会連携センターの動き	.....	3
1-2 研究機構	.....	4
1-3 ボランティアセンター	.....	9
<b>2 地域と連携する授業</b>		
2-1 四日市学(全学共通)	.....	10
2-2 市民教育(全学共通)	.....	10
2-3 人権論(全学共通)	.....	11
2-4 地域社会と環境(全学共通)	.....	11
2-5 地域防災(全学共通)	.....	12
2-6 地域連携特別講義a(全学共通)	.....	12
2-7 インターンシップ(全学共通)	.....	13
2-8 社会調査実習1・2(全学共通)	.....	13
2-9 おもてなし特別講義a、b(全学共通)	.....	14
2-10 行政法(総合政策学部 専門教育)	.....	14
2-11 地域産業論(総合政策学部 専門教育)	.....	15
2-12 地域開発論(総合政策学部 専門教育)	.....	15
2-13 食とまちづくり(総合政策学部 専門教育)	.....	16
2-14 祭りとまちづくり(総合政策学部 専門教育)	.....	16
2-15 音楽とまちづくり(総合政策学部・環境情報学部 専門教育)	.....	17
2-16 鉄道とまちづくり(総合政策学部 専門教育)	.....	17
2-17 コミュニティ論(総合政策学部 専門教育)	.....	18
2-18 地方議会論(総合政策学部 専門教育)	.....	18
2-19 NPO論(総合政策学部 専門教育)	.....	19
2-20 起業論(総合政策学部 専門教育)	.....	19
2-21 四日市公害論(環境情報学部 専門教育)	.....	20
2-22 地域環境論(環境情報学部 専門教育)	.....	20
2-23 環境研修b(環境情報学部 専門教育)	.....	21
2-24 土壌学(環境情報学部 専門教育)	.....	21

### 3 高大連携

---

3-1 総合政策学部の高大連携授業～北星高校の1年生ゼミへの参加～	……	22
3-2 2学部共同の高大連携授業	……	23
3-3 被災地支援活動～三重県との協働と学校間連携～	……	24

### 4 教職員による地域活動

---

4-1 留学生による地域社会との交流	……	25
4-2 一般社団法人四日市とんてき協会	……	26

### 5 学生による地域活動

---

5-1 地パト(四日市大学地域パトロール部)	……	27
5-2 四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」	……	28
5-3 わかもの学会	……	29

### 6 生涯学習・公開講座

---

6-1 みえアカデミックセミナー	……	30
6-2 四日市大学公開講座	……	31
6-3 四日市市民大学 一般クラス	……	32
6-4 履修証明プログラム	……	33
6-5 社会人を受け入れる教育プログラム	……	34

### 7 調査研究

---

7-1 四日市大学研究機構 関孝和数学研究所	……	35
7-2 四日市大学研究機構 公共政策研究所	……	36
7-3 四日市大学研究機構 生物学研究所	……	37
7-4 四日市大学研究機構 環境技術研究所	……	38
7-5 四日市大学研究機構 地域農業研究所	……	39

### 8 NPO等(四日市大学に所在)

---

8-1 四日市北ロータリークラブ	……	40
8-2 NPO法人市民社会研究所	……	41
8-3 一般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会	……	42
8-4 四日市東日本大震災支援の会	……	43
8-5 メディアネット四日市	……	44

四日市大学教員 令和4(2022)年度 研究テーマ一覧	……	45
資料A 学外委員会での活動(委員会名・役職名のリスト)	……	47
資料B 学外での講演活動	……	50

## はじめに

四日市大学は1988年の開学以来、「世界を見つめ地域を考える」をスローガンに、地域重視の取組を行ってきました。2013年度に学長声明「本学の使命に基づく社会連携の推進について」(下記)を发出し、2014年度に文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(以下COC事業)」に採択されたことから、四日市大学の「社会連携」は飛躍的に前進しました。COC事業に取り組んだ5年間、三重県、四日市市をはじめ、地域の企業、メディア、市民団体など各界の皆様のご協力をいただきながら、地域と共に多様な教育・研究・社会貢献活動を進めてきました。

本冊子は、2018年度でCOC事業が終了した後、このレガシーを基に、新たな段階に入った四日市大学の社会連携活動の2022年度一年間の取組をとりまとめたものです。コロナ禍の影響は依然として残っていたものの、さまざまな分野で、四日市大学が地域とのつながりを深めていることを感じていただければ幸いです。

なお、2020年には、今後も地域社会とともに活動していく大学としてのコーポレートアイデンティティとして「Act 4U」を定め、次頁のロゴタイプを活用し、大学内外に社会連携に取り組む本学をアピールしています。本学の社会連携の基本理念を表現するものとして、改めて紹介させていただきます。

四日市大学学長・社会連携センター長 岩崎 恭典

### ◎本学の使命に基づく社会連携の推進について(学長声明の全文)

四日市大学は、地域の積年の念願として、四日市市と学校法人暁学園の公私協力により、昭和63年(1988年)に開学した。設立に当たり作成した四日市大学設置認可申請書において、「地域社会と共生する地域貢献型大学」を基本理念に掲げており、地域と共にあることが本学の使命であることは設立時より明示されている。

以後25年間にわたり、「世界を見つめ地域を考える大学」をスローガンに掲げ、3学部(経済学部・環境情報学部・総合政策学部)において、「地域を創る人材」の育成や地域とつながる研究や社会貢献活動を実践し、多くの成果を上げてきた。これらの取り組みをさらに全学的に推進するため、平成25(2013)年4月には社会連携センターを設置し、「本学の学術研究及び人材を通して社会との連携活動を幅広く推進することにより、地域社会の発展及び本学の研究、教育の進展に資することを目的とする」ことを規程に定めた。これは本学の社会連携が、地域貢献はもとより、地域と連携することで本学の研究、教育を豊かにするという双方向性を志向するものであることを、全学的な方針として明確化したものである。

文部科学省では、平成25年度から、自治体等と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学を支援する「地(知)の拠点整備事業」を開始した。これは、全学的に地域再生・活性化に取り組むと同時に、教育カリキュラムや教育組織の改革など大学のガバナンス改革につなげようとするものであり、各大学の強みを活かした大学の機能別分化を志向するものである。すなわち、個々の大学に今後の大学のあり方の選択を迫るものといえる。

今、本学は少子化に伴う厳しい経営環境に直面している。この状況を乗り越えるためには、本学が四日市市と連携し、地域と共に発展してきた強みを生かし、地域の知の拠点としての存在感を高め、地域から欠くことのできない有用な存在として認識されること以外にはありえない。それは、本学が一方的に地域に貢献するというのではなく、学生が地域の中でたくましく育てられ、本学の教育・研究が地域とつながることで豊かになることでもある。

文部科学省が行うこの事業は、本学にとって原点に立ち返るための起爆剤となりうるものである。本学の使命に立てば、今こそ全ての教職員が一丸となって、全学的な議論と研修を深め、自分のできることを実行することが求められる。また、全学的なガバナンス改革に組織を挙げて取り組む必要がある。

私自身が先頭に立ってこの取り組みを推進する決意であることを申し上げると同時に、すべての教職員にもこのことを深く自覚していただき、この困難な時代に何をなすのかを自らに問うていただき、主体的に取り組んでいただくことを期待する。

2020年4月～



# Act4U

四日市の未来を動かす。

まちをもっと輝かせたい。人のために役立ちたい。  
この熱い想いを、行動に変えていく。  
私たちの決意表明が、「ACT4U」。  
for you=地域の未来を動かすアクション。  
四日市 University から、広がっていきます。

YOKKAICHI UNIV 四日市大学

経済学部 | 地域・企業づくり学部/芸術・経営学部/スポーツ・人間学部 | 看護学部 | 自然環境学部/メディア情報学部

2021年3月～



# Act4U

四日市の未来を動かす。

まちをもっと輝かせたい。人のために役立ちたい。  
この熱い想いを、行動に変えていく。  
私たちの決意表明が、「ACT4U」。  
for you=地域の未来を動かすアクション。  
四日市 University から、広がっていきます。

YOKKAICHI UNIV 四日市大学

## 1-1 社会連携センターの動き

### 活動の目的と経緯

2013年4月、学内外に対して社会連携活動を一元的に所管する部署として、「社会連携センター」が設置され、学内全体に社会連携活動が一定程度浸透したことを受け、2021年4月からは事務局社会連携課のもとに「社会連携センター」は位置づけられることになりました。

社会連携センターは、「本学の学術研究及び人材を通して社会との連携活動を幅広く推進することにより、地域社会の発展及び本学の研究、教育の進展に資することを目的」（「設置規程」）としており、本学の社会連携が、大学の資源を生かして地域に貢献するという側面だけでなく、地域と連携することによって本学の教育・研究を豊かにしていくという、双方向性を志向するものとしています。また、社会連携センターに包含される四日市大学研究機構は、本学教員が外部研究資金（競争的研究資金）を獲得して、その研究活動の深化拡大を援助するとともに、研究を通じて得た知見を講義・公開講座などの学生教育、リカレント教育等に反映させ、もって本学の研究教育の水準を向上させることを目的としています。

### 活動内容と実績

社会連携センターに係るものとして、2022年度は主として次の活動を行いました。

#### ① 地(知)の拠点整備事業(COC事業)の成果の全学的な拡大

2014年度に採択されたCOC事業が終了したのち、新たに高校及びメディア部門を強化した「四日市大学地域連携プラットフォーム」を設置、全体会議を行いました。COC事業の中でも高評価であった、学生の学びの成果を地域に発信する「わかもの学会大会」及び「ボランティアセンター」は、学生教育の中核である教育・学生支援部教学課へ移管しました。

コロナ禍で大きく制約を受けながらも、四日市大学の社会連携が、社会連携センター内にとどまるものから、なお一層全学的な広がりを見せた1年となりました。

#### ② その他の取組

COC事業以外にも、研究成果の学外発信、多様な地域連携活動を行いました。その全体像を示すものが、まさに、この社会連携報告書であるということが出来ます。

### 今後の計画

本学が名実ともに「地／知の拠点」として地域から広く認知されるよう、社会連携センターを窓口として、COC事業のレガシーを活かし、多様な主体と連携する新たな大学づくり・地域づくりに取り組んでいきます。

担当部門 : 社会連携センター

連絡先 : 電話 059-340-1927 メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp

## 1-2 研究機構

### 活動の目的と経緯

本学社会連携センターは、研究機構を内部組織として有しており、研究機構は、競争的研究資金を獲得して、その研究活動を深化拡大することを援助するとともに、研究を通じて得た知見を講義などの教育に反映させて、本学の研究教育の水準を向上させることを目的としています。そのために、文部科学省からの科学研究費を含む国や民間の研究助成金等の募集情報を配布するとともに、科研費獲得講座を開催し、また、学生に対しては、研究倫理教育のオンデマンド教材を作成しています。現在、研究機構には以下の5研究所を設置しています。

- (1) 関孝和数学研究所 (2009年4月設立)
- (2) 公共政策研究所 (2009年10月設立)
- (3) 生物学研究所 (2014年9月設立)
- (4) 環境技術研究所 (2014年10月設立)
- (5) 地域農業研究所 (2018年7月設立)

### 活動内容と実績

文部科学省・科学研究費(科研費)採択数増加を目指して、科研費申請説明会を実施しました。また、学内研究費の傾斜配分を導入し、科研費不採択であってもA評価を受けた教員に対して追加の研究費を支給することとしました。その結果、徐々にではありますが、科研費申請件数が増加しつつあり、本学からの科研費申請は9件となりました。本学が独自に研究助成を行う特定プロジェクト研究については、前年度に引き続き次の3件を採択しました。(1)「地方創生に資する北勢地域の森林再生と農林業振興」(研究代表者：環境情報学部准教授・廣住豊一)(2)「AIを用いた予測・分類システムの開発」(研究代表者：環境情報学部准教授・片山清和)(3)「地域を拓く未来企業に関する研究」(研究代表者：総合政策学部准教授・岡良浩)さらに、本学の多様な研究を総合的に把握し、学内での情報を共有するために、本学教員の年間の研究テーマ一覧を作成しました。また年度初頭には前年度の研究実績一覧も作成しました。研究予定テーマ、実績とも研究機構ホームページに掲載しています。ほかに、『YURO2021』の刊行、学生、教員、関係職員に対する倫理教育(全員受講)などを行いました。

### 今後の計画

引き続き研究の活性化を目指して多様な取組を実施します。

**担当部門** : 研究機構

**連絡先** : 電話 059-365-6712 メール : yuro@yokkaichi-u.ac.jp

特定プロジェクト研究  
「北勢地域における森林価値再発掘と里山圏資源循環モデルの構築」  
(研究代表者：地域農業研究所 廣住豊一)  
最終報告

### 1. プロジェクトの目的と概要

四日市市の位置する北勢地域は豊かな森林と里山資源に恵まれています。ところが、現在の森林や里山は、開発等による森林の破壊や生態系の変化に加えて、放棄竹林による里山の荒廃や獣害等の課題も抱えています。健やかで豊かな森林・里山環境は、地域の基盤産業である農林業を支えています。森林や里山の再生と保全は地方創生の観点からも急務であると考えられます。また、森林の保全はSDGsに掲げられた17の目標のうち第14の目標に関連し、地域課題だけでなく地球規模の課題解決にも寄与できるものとなります。

そこで、四日市大学研究機構地域農業研究所では、特定プロジェクト研究「北勢地域における森林価値再発掘と里山圏資源循環モデルの構築」(以下、「本特定プロジェクト研究」とします)を立ち上げ、豊かな森林や里山の再生を目指した調査・研究活動を実施しました。ここでは、3か年にわたって実施した本特定プロジェクト研究の取り組み内容について報告します。

### 2. 研究実施体制

本特定プロジェクト研究の実施にあたっては、地域農業研究所を中心とした組織体制を構築し、教職員・学生が一体となって研究を推進しました。とくに個別の課題について、調査・研究をすすめるときには、環境情報学部で実施する卒業研究のテーマと関連させることで、学生を積極的に参加させました。本特定プロジェクト研究の実施体制は次の表のとおりです。

表 1. 本特定研究プロジェクトの研究代表者・分担者・連携研究者

役割	所属	氏名
研究代表者	地域農業研究所(環境情報学部)	廣住 豊一
研究分担者 (学内)	地域農業研究所(環境情報学部)	千葉 賢
	地域農業研究所(環境情報学部)	野呂 達哉
	地域農業研究所(環境情報学部)	片山 清和
	地域農業研究所(総合政策学部)	三田 泰雅
連携研究者 (学外)	地域農業研究所(三重大学)	森本 英嗣
	地域農業研究所(九州保健福祉大学)	橋本 幸彦

### 3. 調査・研究の内容と成果

本特定プロジェクト研究では、地方創生の基盤となる農林業を支える豊かな森林・里山の再生を目指した調査・研究活動を実施しました。その内容は次のとおりです。①貴重な野生動物を活用した森林価値の再発掘を行い、森林の新しい価値を見出す。②里山健全度評価や獣害調査を行い、里山の現況を把握する。③竹林間伐材による里山資源の循環モデルの構築を通じて、森林・里山再生のための方策を検討する。



### ① 森林価値再発掘を目指した貴重野生動物調査と普及啓発

北勢地域における森林の価値を再発掘するため、貴重な野生動物の生息調査を実施しました。ロープウェイと連携した御在所岳周辺の野生動物調査を実施し、少野生動物であるカモシカおよびニホンジカの競合の状態を調査し、カモシカの保全方法について検討しました。そのほか、イタチ・モグラ・コウモリをはじめとした小型の野生動物について調査しました。特にコウモリ類については、人間活動がコウモリ類の生活や活動に与える影響についても調査しました。また、野生動物の痕跡や生息地の観察会を行い、普及啓発活動を進めました。

### ② 里山健全度の評価と獣害動物の生息実態調査

里山の保全と再生のため、植生・害虫・害獣等の実態調査から北勢地域の里山の健全度と機能を評価しました。また、UAVや画像解析による新しい手法を用いて四日市周辺の里山健全度調査を実施しました。その結果、北勢地域における森林の現況とこれまでの変遷、竹林が拡大する要因とメカニズムが明らかになりました。また、里山に生息する獣害動物の調査を実施し、ニホンジカの食性や山間地域道路における出没状況を調べました。猟友会への聞き取り調査や、実際の小規模農地に出現する動物をモニタリングすることで、獣害による被害状況を調査しました。

### ③ 竹林間伐材を中核にした里山圏資源循環モデルの構築

里山荒廃の主要な原因となっている放棄竹林問題の解決を目指し、竹林間伐材の利活用に関する調査を進めました。とくに竹林間伐材由来の竹粉を農業資材としての有用性を調べるため、実際の水田で使用調査を継続的に実施し、竹粉の土づくり効果について検討しました。また、自立した里山経営の可能性を探るため、竹粉の供給量や製造コストなどを試算しました。ただし、竹林間伐材の利用に関しては、供給面やコスト面など、まだ検討すべき課題が残されており、竹を中心とした循環モデルを構築するまでには至りませんでした。この点に関しては、今後も調査・研究を継続していく予定です。

本特定プロジェクト研究では、自治体・企業・学校・団体など地域で活動している多くの方と連携し、調査・研究を進めました。また、地域で開催された勉強会や集会などでも報告や情報交換を行いました。本特定プロジェクト研究で得られた成果は、いくつかの学術論文・学会発表・報告書などでその一部を報告し、新聞やウェブニュースなどでも取り上げられました。また、本特定プロジェクト研究の成果は授業や公開講座にフィードバックし、より内容を充実させることができました。

本特定プロジェクト研究は、プロジェクトとしてはいったん完了となりますが、森林・里山域の野生動物および獣害調査、竹林の整備・保全に関する調査、竹林間伐材の活用法に関する調査については、これからもそれぞれの教員と学生が継続して進めていきます。



特定プロジェクト研究は、地域課題解決に寄与することをめざし、四日市大学が大学全体として組織的に取り組む研究・プロジェクトです。複数年度で取り組む一定規模以上の事業です。

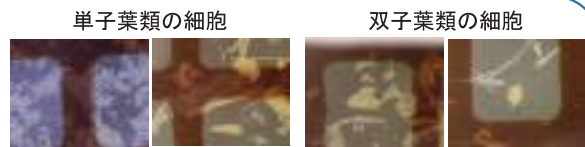
## 北勢地域における森林価値再発掘と里山圏資源循環モデルの構築

**概要:**北勢地域は豊かな森林・里山資源に恵まれている。しかし、現在の森林・里山は、開発等による生態系の破壊、放棄竹林による里山の荒廃、獣害等の課題も抱えている。本特定プロジェクト研究では、農林業を支える豊かな森林・里山の再生を目指した研究活動を実施する。里山健全度評価や獣害動物調査に加えて、竹林間伐材による里山資源の循環モデルの構築を通じて、森林・里山再生のための方策を検討する。

**連携相手先:**三重県民の森、御在所ロープウェイ、四日市大学エネルギー環境教育研究会ほか

### ① 森林価値再発掘を目指した野生生物調査

- (1) 森林に生息する希少野生動物の調査
    - 鈴鹿山脈のニホンカモシカへの影響を評価するため、ニホンジカの食性調査を実施
    - 糞分析によって標高によって採食する餌に差異があることを確認
  - (2) 北勢地域における多様な野生生物の生息調査
    - 山間地域におけるニホンジカの出没状況調査
    - 北勢地域におけるモグラ類の調査
    - ブナ林に生息する哺乳類の実態調査
    - 大学構内の雑木林における哺乳類の調査
    - 音声モニタリングによるコウモリ類の分布
- 北勢地域の森林・里山域には希少な野生動物のほか多様な生物が生息していることを確認



顕微鏡を用いた食物組成の定量評価

糞分析の結果(個数)

採取日	ササ	単子葉類	双子葉類	その他	合計
御在所岳山上公園					
1月10日	469(75.2)	10(1.6)	109(17.5)	36(5.8)	624
3月2日	349(86.8)	6(1.5)	11(2.7)	36(9)	402
4月3日	459(86.1)	14(2.6)	31(5.8)	29(5.4)	533
6月5日	378(79.2)	48(10.1)	46(9.6)	5(1)	477
8月5日	384(88.9)	17(3.9)	21(4.9)	10(2.3)	432
9月29日	376(82.3)	38(8.3)	43(9.4)	0(0)	457
三重県民の森					
1月29日	428(67.3)	9(1.4)	143(22.5)	56(8.8)	636
3月2日	302(73.3)	15(3.6)	42(10.2)	53(12.9)	412
5月27日	408(93.4)	4(0.9)	19(4.3)	6(1.4)	437
7月1日	447(74.5)	22(3.7)	99(16.5)	32(5.3)	600
8月25日	321(72.1)	20(4.5)	104(23.4)	0(0)	445
10月2日	310(67.1)	8(1.7)	121(26.2)	23(5)	462

### ② 里山圏の獣害とその対策の現状調査

- (1) 里山圏における獣害の現状調査
  - 小規模農地での野生哺乳動物による農作物被害を調査し、イノシシによる被害が明らかに
  - 里山の哺乳類相と開発の影響について調査
  - マンボ(農業水路)に生息するコウモリ類の調査
- (2) 獣害対策の活動現場での実態調査
  - 獣害の実態を把握するため、猟友会を中心とした現場の活動について聞き取り調査を実施
  - 四日市市と猟友会との協力関係、猟友会内部で情報共有による広範囲のすばやい対策
  - 猟友会の活動には資格が必要であることから若手が少なく、高齢化や会員数減少が課題



サルの捕獲用の大型罠



トタン板の防除柵



イノシシによる被害



電気柵

代表者

廣住 豊一(環境情報学部・地域農業研究所)

構成員

千葉 賢・橋本 幸彦・片山 清和・三田 泰雅・野呂 達哉(地域農業研究所)



特定プロジェクト研究は、地域課題解決に寄与することをめざし、四日市大学が大学全体として組織的に取り組む研究・プロジェクトです。複数年度で取り組む一定規模以上の事業です。

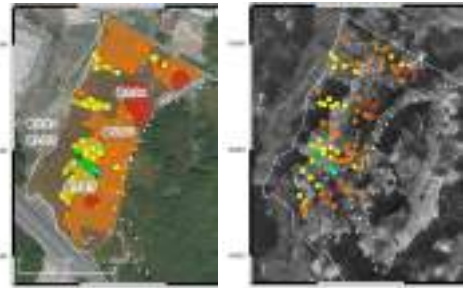
## 北勢地域における森林価値再発掘と里山圏資源循環モデルの構築

**概要:**北勢地域は豊かな森林・里山資源に恵まれている。しかし、現在の森林・里山は、開発等による生態系の破壊、放棄竹林による里山の荒廃、獣害等の課題も抱えている。本特定プロジェクト研究では、農林業を支える豊かな森林・里山の再生を目指した研究活動を実施する。里山健全度評価や獣害動物調査に加えて、竹林間伐材による里山資源の循環モデルの構築を通じて、森林・里山再生のための方策を検討する。

**連携相手先:**三重県民の森、御在所ロープウェイ、四日市大学エネルギー環境教育研究会ほか

### ③ 四日市北部地域の森林被覆の変遷と竹林健全度調査

- (1) 四日市市の森林面積と竹林面積の推移
  - 過去約30年間で市域面積の約2.1%の森林が失われた
  - 森林面積に占める竹林割合が6.8%から19%へと増加
- (2) 四日市北部地域の森林被覆の変遷
  - 竹林が1948年当時の農耕地に広がり面積を拡大
- (3) 四日市北部地域の竹林健全度評価
  - 「竹林健全度」を独自に考案し、竹林の荒廃度を定量化
  - 健全度の低い竹林の大半はかつて農耕地  
→ 農耕地の放棄により竹林が形成された



平津町の森林被覆の変遷



平津町北西部の竹林健全度(左上)、1948年空中写真に重ねたもの(右上)、さらに公図を重ね合わせたもの(下)

### ④ 里山圏資源循環を目指した竹林間伐材の農業利用

- (1) 竹林間伐材から製造した竹粉資材による「土づくり」効果
  - 竹粉を5年間継続散布した四日市市堂ヶ山町の水田で土壌調査
  - 竹粉の連用によって土壌中の有機物量・リン含有量が向上
- (2) 竹粉資材を製造するためのコスト試算
  - 間伐・竹粉製造時の作業時間・人員から生産量を試算
  - 竹粉生産量: およそ 80 kg 人<sup>-1</sup> 時間<sup>-1</sup> ※諸条件に影響を受ける



代表者

廣住 豊一(環境情報学部・地域農業研究所)

構成員

千葉 賢・橋本 幸彦・片山 清和・三田 泰雅・野呂 達哉(地域農業研究所)

## 1-3 ボランティアセンター

### 活動の目的と経緯

四日市大学ボランティアセンターは、平成 25 年 9 月に設置されました。学生ボランティアの依頼・参加申込の窓口として、学生と学外依頼者のマッチングを行っています。平成 27 年度からは、学生全員をボランティア登録し、原則として全員にボランティア依頼情報を送信する仕組みを導入しました。

ボランティアセンターの目的は、①学生の主体的なボランティア活動の振興、②ボランティア活動を通じた学生の人間的成長と本学の地域貢献力の向上、の 2 点です。この目的の実現に向けてボランティア依頼方法や最新の募集情報をホームページに公開し、学生・学外の方への周知を図っています。

### 活動内容と実績

ボランティア活動の状況（ボランティアセンターを通じて申し込んだ活動のみ）

年度	項目	依頼件数	学生参加件数	参加率	学生参加者数	
					延べ	実数
令和 2 年度		10 件	4 件	40%	45 人	11 人
令和 3 年度		10 件	4 件	40%	33 人	11 人
令和 4 年度		25 件	20 件	80%	144 人	63 人

令和 4 年度は新型コロナウイルスとの共存生活が定着したためか前年度より、依頼件数が大幅に増加しました。学生参加件数、参加率ともに大きく上昇した事から、この数年ボランティア活動ができなかったであろう学生が多数参加した事が伺えます。

また、依頼団体による報告書において、小学生に勉強を教えるボランティアでは、慣れていないなりにも関わろうと努力している姿や、障がい者スポーツ大会では、指示していない事も自分で考え行動してくれている姿などが評価され、他のボランティアでも「学生が積極的に動いてくれた」というコメントが目立ちました。「ぜひ次回も参加して欲しい」との声をいただいています。

### 今後の計画

ボランティアへ参加しやすいように、分かりやすい応募文章を作成し、学生及び依頼者に対して、窓口等での親切な対応と丁寧なフォローを心がけます。

担当部門 : 教学課

連絡先 : 電話 059-365-6599 メール : vol-center@yokkaichi-u.ac.jp

## 2-1 四日市学(全学共通)

### 活動の目的と経緯

四日市市を対象として、地域の社会、歴史、文化、自然、産業、環境などの現状を学び、この地域の将来の発展方向を考えることをねらいとしています。

### 活動内容と実績

授業は、座学9コマ、3コマに換算するフィールドワーク2つで構成しました。座学は、「地域と宗教的文化・伝統」、「四日市公害に向き合う」、「四日市の産業」、「ふるさと・四日市の文学者たち」、「四日市の抱える今日的課題～人権問題～」、「四日市の歴史」、「四日市市の発信～シティプロモーション戦略～」、「四日市の文化財を保存・活用」。学内教員だけでなく、ゲスト講師4名に協力をいただきました。フィールドワークは、「四日市市博物館で学ぶ」を実施、「四日市で学ぶ ～市内の名所・名産を体験～」は市内を観て歩くフィールドワークとして8コースから選択させました。

### 今後の計画

次年度23カリキュラムでは、2年配当の必修科目になり、新しいコンテンツを検討し実施します。

担当部門 : 学部共通 担当教員名 : 鬼頭浩文、岡良浩、李修二、永井博

## 2-2 市民教育(全学共通)

### 活動の目的と経緯

若い世代が主権者としての基礎的な力を養成できるよう、入門的な主権者教育を行います。三重県や四日市市において、市民としての権利と責任を自覚し、行動することができる人材の養成を目指します。

### 活動内容と実績

以下のような体系のもと、令和4年度も行政の仕組みや情報公開請求等、三重県や四日市市の具体的な素材を使い、地域についての理解を深めるとともに、普遍的な主権者教育となるよう配慮しました。

- 1 主権者としての基礎知識：日本国憲法と人権、国や自治体の仕組み、税、社会保障、労働
- 2 制度への参加：裁判員制度、検察審査会、住民参加の諸制度
- 3 身近な社会への参加：選挙、消費者としての参加、市民活動、SNS、話し合いの技法
- 4 世界と自分とのつながり：SDGs、平和、環境

### 今後の計画

この授業は令和4年度で終了します。令和5年度からの新カリキュラムにおいて、本授業の趣旨がさまざまな形で生かされる予定です。

担当部門 : 総合政策学部 担当教員名 : 松井真理子

## 2-3 人権論(全学共通)

### 活動の目的と経緯

人権の基本を理論的に学ぶとともに、差別を受けやすい立場の人たちの課題について、地域の当事者を招いた対話などを行い、誰もが安心して暮らせる社会の重要性を理解する講義を行います。

### 活動内容と実績

以下のような体系のもと、普遍的な人権について学ぶとともに、特にマイノリティの人権に関しては、障害者団体や人権に取り組む団体の協力を得て、地域における人権課題やそれへの対応について理解が深まるよう配慮していますが、令和4年度も在日コリアンの方にご協力をいただきました。

- 1 人権の基本：人権の歴史、体系（自由権、社会権、参政権、新しい人権など）
- 2 マイノリティの人権：障害がある人、外国人、子ども、部落問題など
- 3 暮らしの中の人権：患者の人権、地域社会と人権、個人情報保護など

### 今後の計画

この授業は令和4年度で終了します。令和5年度からの新カリキュラムにおいて、本授業の趣旨がさまざまな形で生かされる予定です。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：松井真理子

## 2-4 地域社会と環境(全学共通)

### 活動の目的と経緯

地域の環境問題として「里山の衰退」、「獣害問題」、「外来生物問題」をとりあげます。これらの原因となる社会的背景や解決のために地域でどのような取り組みが行われているのかについて学びます。

### 活動内容と実績

「里山」や「獣害」、「外来生物」についての基礎的な事柄を学ぶと同時に、地域で生じている様々な環境問題に対して具体的な事例を示すことで、これらを自分たちの身近な問題として認識し、考えるきっかけとしました。また、問題解決のために、地域住民や行政、研究者が連携して保全活動に取り組んでいる事例を紹介しました。本年度は、地域の環境保全活動に学生自らが主体的に参加し、継続的に取り組んでくれることを期待しました。「朝明溪谷のブナ林保全活動」に参加した学生の中には、月に1回の保全活動にほぼ毎回参加し、地域の方と汗を流している学生もあり、何よりでした。

### 今後の計画

環境問題を身近な問題として考え、主体的に取り組むことのできる学生の育成に努めます。

担当部門：環境情報学部 担当教員名：野呂 達哉

## 2-5 地域防災(全学共通)

### 活動の目的と経緯

講師に、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘し、実践的な講義を市民にも開放し、NPO 法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指します。

### 活動内容と実績

前半の9コマで学生(24名の登録)のみ対象にテキストを精読し、後半6コマ分は週末集中講義として一般の受け入れ(79名)もして防災士養成講座としました。週末講義は、6/18・25、7/2の週末3日間としました。この3日間は、実践的な学びを重視し、県内の地域防災の最前線で活躍している消防職員、自衛隊員、市役所の危機管理室職員、社会福祉協議会職員、地域の自主防災組織の方などを講師に招聘して講座を展開しました。また、感染予防に気を付けながら、避難所運営訓練 HUG、普通救命講習、災害ボランティアセンター運営訓練も行いました。

### 今後の計画

次年度以降も、引き続き実施していく予定です。

担当部門 : 学部共通 担当教員名 : 鬼頭浩文ほか

## 2-6 地域連携特別講義 a (全学共通)

### 活動の目的と経緯

三重大学が中心となって取り組んできたCOC+事業の一環として、県内の各高等教育機関が共同で開設する食と観光について学ぶPBL型の科目として、平成29年度から開講されている科目です。

### 活動内容と実績

6年目となる令和4年度は、サニーロード沿いの玉城町・度会町・南伊勢町の3町をフィールドとし、本学から5名の学生が参加したほか、三重大、皇学館大、鈴鹿大、三重短大の学生の参加がありました。学生たちは大学間の垣根を超えたグループを組み、食を絡めた「体験型旅行・学修旅行」のコンテンツに関する提案をするために、フィールドワークやグループワークに活発に取り組んでいました。



南伊勢町でのフィールドワークの様子

### 今後の計画

高等教育コンソーシアムみえの事業として、令和5年度以降も、継続して実施していきます。

担当部門 : 教育学部 担当教員名 : 小林慶太郎 (総合政策学部教授)

## 2-7 インターンシップ(全学共通)

### 活動の目的と経緯

正規科目として大学の長期休暇などに合計 10 日間をフルタイムで就労体験し、2 単位を認定します。

### 活動内容と実績

4 月：説明会（CSC 主催）・・・スケジュール詳細説明／申込用紙配布⇒申込用紙を提出⇒書類選考

5 月下旬：ガイダンス・・・受入企業一覧配付/希望研修先用紙配付/事前研修についての連絡等

6 月下旬：研修先マッチング開始 ⇒ 研修先決定

6 月中旬：事前研修・・・マナー研修/インターンシップ中の心得等⇒7 月下旬：直前ガイダンス

8～9 月：インターンシップ研修⇒9 月：事後研修・・・レポート提出⇒単位認定

以上のスケジュールで実施しましたが、コロナ感染の影響もあってここ数年 10 日間の研修を受け入れてくれる研修先が少なくなり、行政中心に 5 日間の研修期間しか確保できず、単位認定はゼロでした。

### 今後の計画

単位認定を伴うインターンシップは、23 カリから 2 科目 4 単位に拡張します。また、3 年生には就活サイトを経由する 1day インターンシップなどにも積極的に参加を呼び掛けていきます。

担当部門：学部共通

担当教員名：鬼頭浩文ほか

## 2-8 社会調査実習 1・2(全学共通)

### 活動の目的と経緯

社会調査実習 1・2 は、全学共通科目の「社会調査士養成ユニット」の一部であり、(一社)社会調査協会が発行する「社会調査士」資格の取得をめざすための科目です。

### 活動内容と実績

この授業では、社会調査の企画・設計から実施・分析・報告に至る一連のプロセスを学生が主体的に担い、実践的に体験します。2022 年度は三重県におけるジェンダー平等を全体のテーマに、地域の現状把握と課題の抽出をはかりました。学生は各自の関心に合わせて防災・スポーツ・地方議会の三つのテーマを取り上げることにし、それぞれ小グループに分かれて調査を実施しました。前期の「社会調査実習 1」では既存の文書資料や統計資料の分析をすすめ、後期の「社会調査実習 2」ではヒアリング調査を実施して最終レポートを執筆しました。

### 今後の計画

今後も地域の課題をテーマに取り上げ、本学ならではの、生きた社会調査を実施してゆきます。

担当部門：全学共通科目

担当教員名：三田泰雅



## 2-9 おもてなし特別講義 a、b（全学共通）

### 活動の目的と経緯

本講義は、おもてなしを担う企業の成功事例を理解することを目的としています。おもてなし経営が成功している企業の総合力を見るのがこの講義のねらいです。

### 活動内容と実績

前学期 a では、「社員・顧客・地域」を大切にする「三重のおもてなし経営」を学ぶために、三重県雇用経済部の協力を得て、三重のおもてなし経営選表彰企業なかの 6 社（㈱オクムラ、紙小津産業㈱、㈱PlanB、三重化学工業㈱、三重電子㈱、(有)ラ・ディッシュ）の経営者を迎え、おもてなし経営として何を重視しているかを対面授業でうかがいました。学生に対して、将来に向けたアドバイスもいただきました。そして、講義後に学生は企業レポートを作成しました。

後学期 b では、情報技術を使用した「おもてなし」サービスの効率化について学びました。

### 今後の計画

今後も三重県、地域企業と連携し、学生と地域企業の交流の場づくりを目指します。

担当部門 : 総合政策学部 担当教員名 : 岩崎祐子 岡良浩 池田幹男（環境情報学部）

## 2-10 行政法(総合政策学部 専門教育)

### 活動の目的と経緯

さまざまな形態で行なわれている行政活動を法的視点から意味づけ、行政活動に法がいかなる役割を果たしているかを理解することを目的に、平成30年度より、本学卒業生の四日市市役所職員の方たちに講義をしていただいています。

### 活動内容と実績

令和4年度は4名の卒業生の方に登壇いただきました。将来、公務員になる学生はもちろんのこと、民間企業に就職する学生でも、仕事上あるいは私生活の上で、避けて通ることのできない行政法について、現職の四日市市役所職員の方に行政実務を踏まえた講義をしていただくことで、学生たちにとっては、公務員など将来の進路も意識することが出来る科目になったと考えます。実際に、この授業を受講した学生の中にも、公務員採用試験の受験を考えるようになった学生がいました。

### 今後の計画

令和5年度も引き続き、本学卒業生の四日市市役所職員の方々に登壇いただく予定です。

担当部門 : 総合政策学部 担当教員名 : 小林慶太郎

## 2-11 地域産業論(総合政策学部 専門教育)

### 活動の目的と経緯

地域産業論は、総合政策学部の専門科目として、地域の企業や産業について理解する目的で開講しています。

### 活動内容と実績

四日市市は産業振興の観点から地元学生に地元企業を知ってほしいと考えており、その受け皿として、地域産業論にてバスツアーを実施しました。2022年度の見学先・見学内容は以下のとおりです。

1. 住友電装株式会社：本社見学および会社説明
2. 四日市茶業振興センター：伊勢茶の概要および試飲
3. 有限会社萩村製茶：製茶工場の見学
4. 稲藤（イナトウ）：日永うちわの講話とうちわづくり体験

### 今後の計画

毎年、四日市市と協議し、見学先や見学内容を検討します。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：岡 良浩

## 2-12 地域開発論(総合政策学部 専門教育)

### 活動の目的と経緯

地域開発論は、地域政策のうち空間構造に関わる内容（国土計画・土地利用計画・都市計画等）を、理論と実践の双方から学ぶことをねらいとしています。（総合政策学部の専門科目）

### 活動内容と実績

実践については、三重県・四日市市を中心とした事例を収集し講義に活用しています。

（三重県関係）

土地利用基本計画・国土利用計画・都市計画図・土地区画整理事業・公共事業の評価

（四日市市関係）

都市計画図・都市計画制度・都市計画マスタープラン・地域・地区別構想、近鉄四日市駅周辺整備基本構想等

### 今後の計画

地域事例は、常に最新のものを収集し講義に活用していく予定です。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：岡 良浩

## 2-13 食とまちづくり(総合政策学部 専門教育)

### 活動の目的と経緯

食文化を通じたまちづくりに取り組んでいる方の話を伺うことなどを通じて、まちづくりの担い手として育てていくことを狙いとして、平成 23 年から開講しています。

### 活動内容と実績

令和 4 年度も、前年度に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、食を活かしたまちづくりイベントが軒並み中止になってしまったことから、こうしたイベントにスタッフとして参加し地域の方々とともに汗を流す経験を通じてまちづくりについて理解を深めていくといったことは叶わず、基本的に座学が中心となりました。しかし、ご当地グルメを使ってまちづくりに取り組んでいる四日市とんてき協会のスタッフの話を聴いたり、本学卒業生でもある津ぎょうぞ小学校のスタッフの方に作成いただいた教材を見たりすることを通じて、食を使ったまちづくりの可能性などについて学びました。

### 今後の計画

令和 5 年度は、四日市市で、ご当地グルメでまちおこしの祭典「B-1 グランプリ」が開催される見込みであることから、このイベントで学生たちにスタッフとしての経験を積ませることも検討中です。

担当部門 : 総合政策学部

担当教員名 : 小林慶太郎

## 2-14 祭りとまちづくり(総合政策学部 専門教育)

### 活動の目的と経緯

担い手が減少している大入道山車等四日市市内の山車の維持のために、若者は何ができるか。「祭り」の意義を、実際に祭りに参加することを通じて学修することを目的とします。

### 活動内容と実績

2009 年、人口減少と高齢化に悩む地元大入道山車保存会からの依頼に応え、祭りを体験することにより、祭りの意義と保存・継承に若者が果たす役割を考えるこの講義は、2022 年度は祭りの意義や大四日市祭の歴史を学ぶ講義、「大入道山車」「岩戸山」「富田鯨船中島組」「桑名石取祭堤原祭車」各保存会会長による座学を実施しました。残念ながら、コロナ禍のため、大入道山車の組立見学のみで、祭りへの参加という肝心の実習機会を持つことができませんでした。しかし、岩崎が出演した映像(<https://www.youtube.com/watch?v=a9ph6DGR8AE&t=6152s>)の視聴を通じて、お祭りを維持しようとする熱い人々の実態を学ぶ機会を持つことができました。

### 今後の計画

所詮学生は「風の人」。当面、祭りを学生の力を借りて存続させるとともに、祭りをできるだけ地元の人々(「地の人」)の参加で支える仕組みの実現に向けて検討を重ねます。

担当部門 : 総合政策学部

担当教員名 : 岩崎恭典

## 2-15 音楽とまちづくり(総合政策学部・環境情報学部 専門教育)

### 活動の目的と経緯

この授業では、「四日市 JAZZ フェスティバル」を通じて、街のにぎわいを創り出そうと取り組んでいる方々を講師に迎えて話を聞き、実際に2日間のイベントにスタッフとして参加するものです。

### 活動内容と実績

コロナ禍から脱したとはいえなかったものの、対策をしながらイベントを実施することが決まったため、2022年度から講義を再開することになりました。第1講のガイダンスのあと、第2講に実行委員長による音楽フェスとまちづくりについて講演いただき、第3講で当日に向けた打ち合わせを実施、本番の2日間はさまざまな役割を学生たちがフィールドワークとして参加(6コマ換算)しました。第10講からは、実行委員にイベントの振り返りの講義をしていただき、学内教員が3回を担当しました。

### 今後の計画

新しい23カリキュラムでは閉講となりますが、コンテンツは総合政策学部の「市民とまちづくり」(2年生配当)に引き継がれ、イベントへのスタッフ参加は「ボランティア活動 a・b」で認定します。

担当部門 : 総合政策学部・環境情報学部

担当教員名 : 鬼頭・前川

## 2-16 鉄道とまちづくり(総合政策学部 専門教育)

### 活動の目的と経緯

車社会で育った学生が、移動困難者が多くなる時代に向けて、公共交通を存続させる意義について学び、具体的に地方鉄道の維持・活性化方策を考え、実践していくことが本講座の目的です。

### 活動内容と実績

2008年、三岐鉄道と日本民営鉄道協会が総合政策学部へ寄付講座を開設していただいたことを契機に、翌年度、どうしたら地方鉄道を維持できるかを検討しました。その結果、三岐鉄道北勢線に「サンタ電車」を走らせようと学生が企画し、10年度から19年まで続けました。コロナ禍のため、20年、21年度は、座学と現地視察で地方鉄道の現状を学び、コミュニティバスとの連携策、自動改札の導入などの具体的な提案にとどまり、「サンタ電車」を走らせることができませんでしたが、22年度はコロナ対策を万全にしたうえで、「サンタ電車」を実施しました。

### 今後の計画

コミュニティバスとの連携など、公共交通の維持方策の検討を続けていきたいと思います。来年度こそは、学生と地域住民に受け継がれている「サンタ電車」を改めて走らせたいと思います。

担当部門 : 総合政策学部

担当教員名 : 岩崎 恭典

## 2-17 コミュニティ論(総合政策学部 専門教育)

### 活動の目的と経緯

一般に町内会・自治会といわれる地縁団体について学ぶ科目です。日本全国津々浦々にありますが、その活動は多岐にわたるため、具体的な活動を体験することが必須であり、現場重視の科目です。

### 活動内容と実績

この講義では、地縁団体の歴史と、現在、地域運営組織が必要となっているという時代背景を座学で学んだのち、例年、活動の現場へと出かけます。2012～13年度は志摩市渡鹿野島、14～15年度は鳥羽市、16年度は、地元八郷西町会の会長のお話と空家対策としてのシェアハウスの可能性を検討しました。17年度から19年度は、地元の秋祭りにチヂミの屋台と大学紹介のブースを出店し、地元の方々と触れ合うことを通じて、地縁団体の存在意義について、身をもって学んでもらったところですが、20年、21年度はコロナ禍のため、桑名市野田地区まちづくり協議会をはじめとするいくつかのまちづくり協議会の発足式や会議の見学で終わってしまいました。

### 今後の計画

大学も地元自治会の会員として、来年度こそ、教材として地元を活用させていただくつもりです。

担当部門 : 総合政策学部

担当教員名 : 岩崎 恭典

## 2-18 地方議会論(総合政策学部 専門教育)

### 活動の目的と経緯

三重県は県議会や四日市市議会など、議会改革では日本のトップランナーです。現場で活躍する議員等から直接学ぶ機会も設け、地方議会の重要性を学ぶため、地域への公開授業として開講してきました。

### 活動内容と実績

令和4年度は担当者の関係で不開講となりました。

### 今後の計画

令和5年度からの新カリキュラムにおいて、地方議会について実践的に学べる新たな科目を設置する予定です。

担当部門 : 総合政策学部

担当教員名 : 未定

## 2-19 NPO論(総合政策学部 専門教育)

### 活動の目的と経緯

社会を構成している3つのセクター（政府、企業、市民）のうち、市民セクターの今日的な役割と意義について、四日市市を中心とする具体的な事例に基づいて、深く理解する講義を行います。

### 活動内容と実績

地域の事例を交えながら、NPOの基本や課題の所在、NPOの新しい方向性などを具体的に理解できるよう努めています。令和4年度は、恒例の公益財団法人ささえあいのまち創造基金の「ささえあい基金」公開プレゼンテーションに参加し、共感したいNPOに投票しました。コミュニティづくり、子ども・若者支援、障害者支援、環境保護など、四日市市を中心に活動する多彩なNPOのプレゼンテーションを実際に聴く機会を持つことによって、地域のNPOの状況について、学生の理解が進むよう配慮しました。また、桑名市からも「学生ができる市民活動」についてご説明いただきました。

### 今後の計画

この授業は令和4年度で終了です。令和5年度からの新カリキュラムにおいて、市民活動について実践的に学べる新たな科目を設置する予定です。

担当部門 : 総合政策学部

担当教員名 : 松井真理子

## 2-20 起業論(総合政策学部 専門教育)

### 活動の目的と経緯

起業論は起業家精神（アントレプレナーシップ）を学ぶ目的で、総合政策学部の専門科目として開講しています。

### 活動内容と実績

株式会社三十三総研が実施するビジネスプランコンテストを活用し、より実践的な起業家精神の育成を図っています。具体的には株式会社三十三総研に①応募事例の紹介（とりわけ学生応募）②財務指標とビジネスプラン作成にあたっての留意事項について、2回に渡って教授いただいています。

一方で教員側は、学生に馴染みのある企業の事例や、学生が取り組みやすいソーシャルビジネスなどを事例に、事業計画のフレームと立案に必要な分析手法などを教授しています。

また三重県信用保証協会からも連携の一貫として講義をいただいています。

### 今後の計画

毎年、やり方を改良しながらビジネスプランコンテストの学生部門への応募を目指しています。

担当部門 : 総合政策学部

担当教員名 : 岡 良浩

## 2-21 四日市公害論（環境情報学部 専門教育）

### 活動の目的と経緯

環境情報学部では、四日市公害に関する基礎的な知識を身に付け、その教訓を学んだ上で、様々な環境問題に対処するように指導しています。そのため、本講義は学部必修科目となっています。被害者、市民、行政、企業側という複数の視点から四日市公害を見るとともに、明治初期からの公害史や環境法成立の歴史という観点での理解も求めます。

### 活動内容と実績

新型コロナの影響で中止していた「四日市公害と環境未来館」でのフィールドワークを令和4年度に復活しました。15回の講義内容は次の通りです。①ガイダンス、②～④海外の公害、戦前の鉱害と公害、日本の4大公害、⑤技術的側面から見た四日市公害、⑥ここまでの授業のまとめと、フィールドワークに関するガイダンス、⑦～⑩フィールドワーク、⑪フィールドワークの振り返り学習、⑫～⑭日本や世界の環境問題・公害に関する学生発表とディスカッション、⑮講義のまとめと期末試験の範囲の説明。

### 今後の計画

学生たちが興味を持って学べるように、授業内容に工夫を加えてゆきます。

担当部門 : 環境情報学部

担当教員名 : 千葉 賢

## 2-22 地域環境論（環境情報学部 専門教育）

### 活動の目的と経緯

環境関連の諸分野で活躍している方を講師として招聘し、環境問題の現実と経験をお話いただき、教科書や通常講義では知ることが難しい事柄を学生に学ばせることを目的としています。

### 活動内容と実績

令和4年度の15回の講義の内容は次の通りです。①ガイダンス、北勢地域の環境問題、②伊勢湾のアカウミガメと環境問題、③豊穰の伊勢湾を取り戻すために、④海洋プラスチック問題とSDGs、⑤戸田家のSDGsの取り組み、⑥再生可能エネルギーと省エネ、⑦キオクシアの環境対策、⑧四日市周辺の自然環境問題、⑨長良西小のSDGs教育、⑩三重県の林業と今後、⑪農業における環境への影響・多面的機能と可能な地域コミュニティ、⑫農福連携による地域農業の展開、⑬三重県の真珠産業と環境問題、⑭伊勢湾の貧栄養問題と下水処理場の管理運転、⑮四日市市のゴミ処理とリサイクル

### 今後の計画

内容の濃い講義を行って参ります。公開授業ですので、学外の皆様も是非ご参加ください。

担当部門 : 環境情報学部

担当教員名 : 千葉 賢

## 2-23 環境研修 b (環境情報学部 専門教育)

### 活動の目的と経緯

中京圏の経済は発展しましたが、伊勢湾の環境は悪化し、諸規制にも関わらず豊穡な海は戻って来ていません。本講義では海洋調査法の基礎と、実習を通じて伊勢湾の環境問題の現状を学びます。

### 活動内容と実績

三重大学の勢水丸をお借りして、伊勢湾内外に出で行う授業です。2009年に開始してから14年目を迎えました。新型コロナの影響ために、2022年度は乗船人数を6~7名に絞り、8月4日と5日、及び、11月24日と25日の2回に分けて実習を行い、合計で13名の学生を参加させることが出来ました。講義の内容としては、事前授業で海洋科学の基礎を学び、実習では勢水丸の機器を使って水質や底質、生物調査などを行います。船内の掃除、配膳、食器洗いなども学生の仕事で、皆で協力して作業を進めます。事後授業に参加してレポートを提出すると単位を取得できます。本地域の持続可能性を考える上で、伊勢湾の役割や環境問題を知ることは大切で、本講義はその役割を果たしています。

### 今後の計画

実習を継続するとともに、取得データを分析し、伊勢湾の環境改善に役立てます。

担当部門 : 環境情報学部 担当教員名 : 千葉 賢

## 2-24 土壌学 (環境情報学部 専門教育)

### 活動の目的と経緯

それぞれの地域の固有財産であるだけでなく人類の共有財産である土壌について、地域の環境問題を学ぶ環境情報学部の学生に考えてもらうために実施しています。

### 活動内容と実績

土壌は世界中のいろいろな場所にある人類共通の財産です。土壌はそれぞれの土地や風土に密着しており、その土地の農業や食文化にも結び付いた極めて地域性の高い財産です。この土壌学では、環境情報学部の自然環境分野3年次生を対象に、15回の講義のうち1回をあて、三重県や北勢地域にある土壌の特徴や性質、分布状況などについて、実際の写真を交えて紹介しています。

### 今後の計画

カリキュラムの改訂にともない、次年度から「土壌環境学」が始まります。この授業でも、これまでに土壌学で実施してきた内容を踏まえて、引き続き土壌と地域に関する話題を盛り込む計画です。

担当部門 : 環境情報学部 担当教員名 : 廣住豊一



## 3-1 総合政策学部の高大連携授業～北星高校生の1年生ゼミへの参加～

### 活動の目的と経緯

総合政策学部の「入門演習Ⅰ・Ⅱ」では、北星高校生の参加を受け入れています。2019年度からは、四日市大学と北星高校との間に締結された高大連携提携書にもとづいて実施しています。

### 活動内容と実績

北星高校との連携は、同校が四日市北高校であった時代から始まっています。当初は本学の上級生向けゼミ活動に参加する形が中心でしたが、2005年度以降は1年生のゼミに参加して高校の単位修得とする現在の形式になりました。北星高校の授業は生徒の選択制になっており、毎年必ず数名が参加してくれています。2022年度は前学期3名・後学期2名の述べ5名が参加し、本学の学生と交流して学びを深めました。本授業に参加した生徒の中には、卒業後に本学に進学して学びを深めた学生もいます。

### 今後の計画

北星高校の学校評価委員長も本学の教員が長年務めてきており、多面的な高大連携が期待されます。

●.....●  
担当部門 : 全学共通科目                      担当教員名 : 永井博 (科目代表)

## 3-2 2 学部共同の高大連携事業

### 活動の目的と経緯

四日市大学では本学と高校の相互理解を深めるために、様々なレベルで高校と連携（あるいは協力）した活動（事業）を実施しています。その中で、2 学部が共同して高大連携協定を締結し、高校との連携事業として取り組んでいるものをご紹介します。

### 活動内容と実績

#### ○暁高等学校

◇3月8日、高校生の「探究活動」に向けた心構えをテーマに、岩崎学長が全1年生を対象に講演を行いました。また、翌日の3月9日には、同じく1年生を対象にした授業体験会を実施しました。約40名が本学に来学して以下の5つのテーマから1つもしくは2つの模擬授業を約2時間受講しました。事前に各教員から与えられた課題に取り組むことで、講義内容の理解をさらに深めることができました。また、令和4年度より高校の「探究活動」に向けた心構えをテーマに、岩崎学長が全1年生を対象に講演を行いました。

NO	授業体験会のテーマ	担当教員
1	家族の変化を考える	三田 泰雅 教授
2	転倒予防のためのバランス運動	小泉 大亮 教授
3	日常の哲学を考えてみる	F. フェハーリ准教授
4	哺乳類の世界を探る 身近な動物を見つけてみよう	野呂 達哉 准教授
5	光を使った演出を体験してみよう！	黒田 淳哉 助教

#### ○桑名北高等学校

◇6月15日、全2年生を対象に「大学・専門・就職セミナー」を実施しました。担当した入試広報室小岸より高校と大学との学びの違い、キャンパスライフの紹介、卒業後の進路などを紹介して進学への意識を高めることができました。9月28日、鬼頭副学長が全3年生195名を対象に「環境セミナー」の一環として「ペットボトルと割りばしにみる本当に環境にやさしい行動」をテーマに講演しました。

#### ○いなべ総合学園高等学校

◇11月2日、コロナ感染状況を鑑み大学と高校をリモートで中継し、1年生約280名に対して鬼頭副学長より「防災講話」が行われました。東日本大震災当時のインタビュー映像、災害ボランティアの様子、地元高校生との交流などが紹介されました。災害発生時の行動や防災への意識を高めることができました。

### 今後の計画

今後の取り組みとしては、探究活動に寄り添う形で高校との連携を図り、単なる出前授業で終わらせることなく研究室訪問などの機会などを設けて高校との関係性の強化を図ります。高校生の主体性を伸ばし、「探究活動」をいかしたプログラムを提供したいと思います。

担当部門 : 入試広報室

連絡先 : 入試広報室次長 佐藤信行 電話 059-365-6711 メール : sato@yokkaichi-u.ac.jp

## 3-3 被災地支援活動 ～三重県との協働と学校間連携～

### 活動の目的と経緯

四日市東日本大震災支援の会(以下、支援の会)は、被災地の復興・復旧のために、四日市大学の学生・教職員が中心となって2011年4月に設立し、2011年5月から一般市民とともに災害支援活動を行いました。2012年3月からは、四日市看護医療大学、桑名北高校、四日市四郷高校、暁中学高等学校などと連携し、各学校のバックアップのもと、支援活動を行ってきました。当初の目的は、大規模災害を受けた被災地の復旧・復興支援と心のケアにありましたが、被災地での活動経験や見聞きしたことを地域防災に活かす活動も行っています。予想される南海トラフ巨大地震においては、三重県において復旧・復興がスムーズに進むためには、多くの若者が被災地でボランティア活動をした経験が生きてきます。学校間で連携することも、災害に強いまちづくりにつながります。さらには、遠く被災地の若者と交流することも大切なことです。また、支援の会では、2015年度より、三重県教委と連携した「学校防災ボランティア事業」を実施し、三重県内の高校・中学に呼びかけを行い、被災地での支援活動を通して三重の地域防災に貢献する人材育成に協力しています。さらに、2022年度より三重県防災対策部と連携した「みえ学生防災啓発サポーター」養成講座を開催しました。そこでは、県内の大学生や20代の社会人、高校生を対象として実践的な防災学習を行い、県内での子供防災キャンプの実施、宮城県での防災学習なども実施する事業です。

### 活動内容と実績

支援の会では、2020年度末までに、延べ78回2,473人が活動をしました。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、活動が制限されることもありましたが、2022年度より連携事業がスタートしました。三重県教委と連携した「学校防災ボランティア事業」は2022年1月に少人数で実施しました。また「みえ学生防災啓発サポーター」養成講座は約50名の参加者があり、夏に防災キャンプ、11月に宮城での防災学習を実施しました。

また、地域防災への貢献活動としては、2022年度は、四日市大学で防災士養成講座を開講しました。講座は、四日市市危機管理室、四日市市社会福祉協議会、四日市市消防団、自衛隊など、防災に関わっている行政・市民の方にも講師になっていただきました。2021年度はコロナ禍のため外部の受講を制限しましたが、2022年度は、三重県内の高校生・大学生・一般社会人など、あわせて約100名が参加しました。

### 今後の計画

2023年度からは、アフターコロナで、できるだけ多くの活動を行いたいと考えています。学校間で連携し、被災地支援と三重の地域防災への貢献をしていきます。

**担当部門** : 四日市東日本大震災支援の会

**連絡先** : 総合政策学部教授 鬼頭浩文 電話 : 059-340-1902 メール : kito@yokkaichi-u.ac.jp

## 4-1 留学生による地域社会との交流

### 活動の目的と経緯

留学生支援センター(留学生支援委員会、留学生支援課)は、留学生が主体的に地域社会と交流するための機会として、学内外での行事の実施や参加を企画してきました。特に、「四日市大学留学生日本語弁論大会」は地域の皆さんと交流する機会が持てる催しです。過去には、「留学生弁論大会」で優秀な成績を収めた者の中から、全国大会での受賞者が出たり、弁論原稿が日本語の教科書に採用されたりしています。近年、地域社会においても異文化理解や国際交流での留学生への期待がより一層大きくなっており、留学生支援センターでは、そうした地域社会からの要請にも、可能な範囲で対応しています。

### 活動内容と実績

第19回目となる「四日市大学留学生日本語弁論大会」を四日市市、四日市北ロータリークラブ、国際ソロプチミスト三重 - 北から後援を頂き、予選を12月1日に実施し、7名が本選に出場しました。本選は、三重大学から1名、鈴鹿大学から1名の出場者を招き、12月24日に開催しました。この大会は司会やスタッフも留学生が務め、進行のすべてを担当。大会出場者、運営担当者は何度も練習を重ねて、この日に臨みました。会場となった311教室には、四日市市など周辺自治体関係者や地域の方々、日本語授業担当の先生、教職員、日本人学生など学内外の多数の方々にご参加頂きました。

また、桑名市教育委員会国際教室では、ベトナムの文化紹介、木曾岬小学校インターナショナルデーでは、カンボジア、ベトナム、スリランカの文化紹介、三重県国際交流財団主催の「にほんごのなかま in Yokkaichi」では、地域住民と日本語での交流を行い、国際交流と異文化理解活動に取り組みました。また、四日市市多文化共生推進室主催の市民懇談会に参加し、「多文化共生と防災」について外国人の立場から意見を述べました。

しかしながら、これまでの取り組みが高く評価され、全国の日本語学校教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先として平成25年から8回上位入賞し、平成27年、28年、29年には大賞を受賞した「日本留学 AWARDS」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施が見送られました。

### 今後の計画

令和5年度については、これまでの活動を継続しながら、地域社会との連携や学内における日本人学生との交流活動について積極的に実施する計画です。



留学生日本語弁論大会



桑名市教育委員会国際教室

担当部門 : 留学生支援課

連絡先 : 電話 059-365-6793 メール : [issc@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:issc@yokkaichi-u.ac.jp)

## 4-2 一般社団法人四日市とんてき協会

### 活動の目的と経緯

四日市に来たことがない人たちにとっては、四日市と言うと、依然として公害の街という印象が強いようです。しかし、実際の四日市は、そのイメージに反して、とても暮らしやすい街です。

このギャップの解消、すなわち四日市に対するイメージの改善こそが、実は、四日市で地域おこしを進めていく上での、最大の課題なのではないでしょうか。いくら暮らしやすい魅力あふれる街であっても、それが知られていなければ、そこに引っ越して来る人も遊びに来る人もいないでしょうし、負のイメージでしか見てもらえないということが続けば、そこに住んでいる人たちまでもが、自らの街に対する愛着や自信・誇りを、失ってしまいかねません。

そこで辿り着いたツールが、ご当地グルメ「とんてき」です。昔から愛され食べ続けられてきた「とんてき」に四日市の地名を冠して発信していくことで、四日市に対するイメージを改善し、四日市に暮らす人々の街への愛着や自信・誇りを取り戻していこう、「四日市とんてき」をツールとして活用することで地域おこしを進めていこうと考え、平成20年に総合政策学部の小林を代表として、四日市とんてき協会を設立しました。

### 活動内容と実績

活動の目標は、「とんてき」の販売促進ではありません。「四日市とんてき」というツールを使って、四日市という街の魅力を発信することです。平成20年春以来ほぼ毎年発行してきた「四日市とんてきマップ」を現在はネットで配信しているほか、「四日市とんてき」を通じて四日市を売り込める公認ソースを始めとする様々な商品の開発を監修したり、ご当地グルメでまちおこしの祭典「B-1グランプリ」への出展(平成22年度から)をはじめとした各地のイベントへの出展を通じて四日市のPRに努めたりしています。

令和4年度は、前年度に続いて新型コロナウイルスの感染拡大の影響でイベント等は軒並み中止になってしまいましたが、テレビやラジオなどのメディアに出演しての四日市のPRなどを、引き続き進めてきました。また、対外発信だけではなく四日市の魅力を発掘することで、市民のまちへの愛着や自信・誇りを高めていこうと「四日市まちづくりカフェ」という取組みも平成26年度から始め、隔月で開催しています。



出演した中京テレビの番組の一場面

### 今後の計画

令和5年度の四日市市でのB-1グランプリの開催に向けて、準備を進めて参ります。

**担当部門** : 一般社団法人四日市とんてき協会 (代表理事: 小林慶太郎 総合政策学部教授)

**連絡先** : 四日市とんてき協会事務局 メール: [tonteki@tonteki.com](mailto:tonteki@tonteki.com)

## 5-1 地パト（四日市大学地域パトロール部）

### 活動の目的と経緯

各学部割り当てられた未来経営戦略推進経費を活用して、総合政策学部では、平成22年度に、学生による大学活性化企画を公募し、審査の上でその企画の実施経費を補助するという事業を行いました。この企画として、学生から自発的に応募があったのが、四日市大学地域パトロール(通称:地パト)です。学部からの補助は、蛍光色のユニフォームや、ごみ収集袋などの費用に充てられました。当初は2名の学生だけでのスタートでしたが、防犯や清掃美化、そして地域住民との交流などを目的に活動し、今日まで継続的に活動しており、社会からの評価も高まっています。当初からパトロールをしてきたあさけが丘だけではなく、平成29年度からは、新たに大矢知地区でもパトロールを始めました。また、令和3年度からは、あさけが丘での産官学連携の「高齢者の安全な暮らしを支える活動」にも参加しています。

### 活動内容と実績

月に3～4回、大学の授業が終わった後に、揃いのユニフォームを着て、地域の方へ声掛けを行い、拍子木を叩きながら巡回しています。また、巡回の際にはゴミ拾いも行い、地域の美化活動にも取り組んでいます。



令和4年度は、四日市北警察署や暁高校の学生と山城駅での「全国地域安全運動」の広報を行ったり、四日市北警察署で開催された防犯ボランティア情報交換会に参加し地域で活動している方々との意見交換なども行ったりしました。令和5年1月には、四日市市地域防犯協議会にて活動発表も行いました。

活動の様子は、これまでたびたび各種メディアに取り上げられるなどしてきましたが、令和4年5月には、ごみ拾い SNS「Pirika」を運営する株式会社ピリカの主催する「Piri-Cup2022」において、2部門で入賞を果たしました。

### 今後の計画

地域の安全は本来、地域の住民が主体となって担うものであり、地パトの活動は、あくまでもそうした地域の意識を涵養するための触媒と言えます。そうした地パトの活動の意義は、これまで高く評価されてきたところですが、残念ながらその一方で学内では、活動を引き継いでいく部員の不足に苦しんでいるという実情もあります。

現在の部員は少人数ではありますが、あさけが丘の市営住宅に入居した学生の参加もあり、引き続き、地域の方たちのために、地道に活動を続けていく予定です。

**担当部門** : 総合政策学部 教授 小林慶太郎（地域パトロール部 顧問）

**連絡先** : 電話 : 059-365-6599(教学課) メール : keitaro@yokkaichi-u.ac.jp

## 5-2 四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」

### 活動の目的と経緯

選挙というと、毎回、若者の投票率が低いことが問題となります。こうした状況を打破しようと、四日市市選挙管理委員会と連携して総合政策学部の小林が呼びかけたことを受けて、学生たちが自分たちの世代（若者世代）の投票率の向上を目指して始めた活動が「ツナガリ」です。平成22年12月16日に、経済学部3名、環境情報学部1名、総合政策学部4名の計8名でスタートしました。グループ名の「ツナガリ」には、若者と選挙のツナガリ、選挙で選ばれる代表とのツナガリ、次の世代・未来へのツナガリなどの思いが込められています。

### 活動内容と実績

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、7月に実施された参議院議員選挙に向けては、街頭での啓発なども行うことができず、なかなか満足な活動ができませんでした。しかし、年度の後半には、行動制限の緩和などを受けて、「広報よっかいち」への協力や啓発動画への出演など、年度明けの4月に実施される統一地方選挙に向けた啓発を実施することができました。

また、四日市市選挙管理委員会と協力して、若者の利用の多いSNSで選挙や投票に関する情報を発信しようと、フェイスブックページの運用も行っています。

こうした学生の活動は、選挙事務関係者や議会関係者、マスコミなど、多くの方からも注目・評価いただいています。



ツナガリが載った「広報よっかいち」2月上旬号      ツナガリの学生が出演した啓発動画の一コマ

### 今後の計画

令和5年度は、4月に予定されている統一地方選挙をはじめとする各種選挙に向けて、若者の投票率を上げるための活動を、引き続き行っていく予定です。

**担当部門** : 総合政策学部 教授 小林慶太郎（四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」顧問）

**連絡先** : 電話 : 059-365-6599(教学課) メール : keitaro@yokkaichi-u.ac.jp

電話 : 059-354-8269(四日市市選挙管理委員会事務局)

## 5-3 わかもの学会

### 活動の目的と経緯

「わかもの学会」は、文部科学省からの補助金事業「地(知)の拠点整備事業(COC 事業)(平成 26 年度-平成 30 年度)」の一環として開始した、地域の「わかもの」たちによる地域活動や研究の報告会です。学生が地域と交流して、経験値を高めることに加え、取組の内容が地域の活力になることを目指しています。また「学会」という名称は、単なる活動報告に留まるのではなく、大学ならではの学術的な内容を地域に発信することをねらったものです。補助金が終了した令和元年度からは、四日市大学学会との共催事業「わかもの学会大会」として継続することとなりました。各学部から選出された本学学生たちが、卒業論文や研究活動等について地域に報告します。

### 活動内容と実績

令和 5 年 2 月 11 日(土)「第 9 回 四日市大学わかもの学会大会」(主催：四日市大学学会・四日市大学)を本学(8 号館 2 階)にて開催しました。各学部で選抜された学生 8 組は、この日に向けて努力を重ね、研究成果や制作活動について発表しました。残念ながら、1 組が体調不良等により、欠席となりましたが、発表、質疑応答の各組 15 分で進行し、どの学生もわかもの学会大会に相応しいフレッシュな発表となりました。7 組の学生発表後、会場では環境情報学部の学生映像作品が上映され、審査の結果を待ちました。審査員(学長、教育・学生支援部長、各学部長)による厳正な審査の結果、最優秀賞、優秀賞、奨励賞、また、来場者の投票による会場特別賞が授与されました。

### 今後の計画

令和 5 年度も、引き続き、四日市大学学会との共催で「わかもの学会大会」を実施する予定です。

第 9 回わかもの学会大会結果 テーマ・発表者・指導教員

最優秀賞	大型店舗の屋根下におけるコウモリ類の音声モニタリング 環境情報学部 4 年 太田 正樹 指導教員：野呂 達哉
優秀賞	子ども・若者の孤独・孤立を予防する「居場所」の研究 総合政策学部 3 年 板井 秀次 細野 遼斗 山口 颯真 和田 真 指導教員：松井 真理子
優秀賞	伊勢湾産のムラサキイガイ <i>Mytilus galloprovincialis</i> の軟体部に含まれるマイクロプラスチックの調査 環境情報学部 4 年 亀山 祐太郎 指導教員：千葉 賢
奨励賞 会場特別賞	2D 短編アニメーション「Blue Sky」 環境情報学部 4 年 エスカランテ ウモス ディエゴ アロンソ 指導教員：柳瀬 元志
奨励賞	ダイバーシティの観点から見る産地所運営について 総合政策学部 3 年 川村 祐樹 佐藤 聖真 野田 清世 松本 聖城 森 晃斗 指導教員：小林 豊太郎
奨励賞	第三空間と私 総合政策学部 4 年 河内 一斗 指導教員：三田 泰雅
奨励賞	ロボットカーの制御 環境情報学部 4 年 リ チー タン 指導教員：津田 幹男
奨励賞	企業の SDGs と株価の関連性 総合政策学部 3 年 瀧崎 奈美・杉山 雄亮・ユン ヴァン クワン 指導教員：奥原 貴士

担当部門：教学課

連絡先：電話 059-365-6599 メール：kyomu@yokkaichi-u.ac.jp



## 6-1 みえアカデミックセミナー

### 活動の目的と経緯

「みえアカデミックセミナー」は、県下生涯学習の進展を目指した県民の方のための公開講座で、県内の高等教育機関 16 校すべてが参加していることが大きな特徴です。1996 年度に「三重 6 大学公開講座」として本学を含む 6 大学で開始し、2003 年度から各機関が講座を担当する形式となって現在に続いています。主催は三重県生涯学習センターですが、各高等教育機関が講師を担当する「公開セミナー」はそれぞれの機関の教育の特長が活かされ、全国的にもユニークな事業です。本学はセミナー開始時から現在まで、一度も欠かさず講義を実施してきました。

セミナーは「オープニング講座」（令和 2 年度は中止）「公開セミナー」「移動講座」の 3 つで構成され、同時開催の「アカデミック展」では各参加校の状況をパネル等で紹介しています。同時に本学のパンフレットや四日市大学論集等を設置し、多くの方にお持ち帰りいただいています。

### 活動内容と実績

2022 年度の上日市大学「公開セミナー」は 8 月 9 日に『失われゆく夜について考える-人口照明によってもたらされる環境問題-』というタイトルで、黒田淳哉環境情報学部特任助教が講師を務めました。講演は、私達が使用する人工照明によってもたらされる様々な環境問題を説明・解説し、参加者の皆様と共に「失われゆく夜」について考えていくという内容でした。



講演中の黒田特任助教

当日は事前申し込みされた 63 名の方にご参加いただきました。講演は大変好評で、参加いただいた皆様からは、「人工照明により公害が発生していることを初めて知りました。黒田先生のご説明大変わかりやすく良かったです。ありがとうございました。」といった感想をたくさんいただきました。講演の最後に、「多様な価値観や、生活リズムを自由に選択できる社会の中で、光害をどう捉えるのかを考える必要があると考えています。まずは、考える事から始める必要があります。」と黒田助教からの投げかけもあり、受講された方々は光害の問題に目を向ける切っ掛けになったようでした。

### 今後の計画



富田 与 教授

2023 年度の講座は次のとおりです。

- 日 程：2023 年 7 月 15 日（土）13 時 30 分開講
- 場 所：三重県文化会館 レセプションルーム
- テーマ：「ウクライナ・フィルター」  
— 情念と情報の国際社会 —
- 講 師：富田 与（総合政策学部 教授）

担当部門：社会連携センター（社会連携課）

連絡先：電話 059-340-1927 メール：renkei@yokkaichi-u.ac.jp

## 6-2 四日市大学公開講座

### 活動の目的と経緯

リカレント教育は、近年、ますます重要度と注目度を増しています。大学における研究成果を広く公開し、地域の皆様の生涯学習を推進することを目的として、本学では開学2年目の1989年から公開講座を開始し、毎年度、その時代のニーズに合わせて様々な形式で開講しています。講師は原則として本学専任教員が務め、本学教員の専門知識を生かした内容です。一般の方を対象に開講するものですので平易な説明を心掛け、本学の教育研究内容を広く提供することで幅広い知識や視野を身につけていただくことを目指します。

2014年度に採択された文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」を機に、同年度より2018年度までの5年間はCOC事業の一環としての公開講座も併せて、年2回の公開講座を実施してきました。2019年度よりこれを1回に集約し、より充実した内容で、地域コミュニティにお届けしています。

### 活動内容と実績

#### 案内チラシ



2022年度の講座は9月17日(土)14:00より、四日市市地場産業振興センターじばさんで実施しました。講師は総合政策学部のフェリペ フェハリー特任准教授で、講座タイトルは「日常生活の哲学 日常生活に隠されている「哲学」の大問題を明らかにする」でした。

講師から、ダイナミックにそして表現豊かに『答えのない問い』に対し考えることの大切さを伝えられた受講生からは、「哲学」について初めて講義をうけました。先生の熱心な講義に少しぼんやりと「哲学」がわかるような気がしました。ありがとうございました。」など、好評をいただいております。

哲学は敷居の高い内容と考えられがちですが、講師のユーモアあふれる、また情熱的な講演内容に、受講者の方々も満足いただけたようでした。

今回の公開講座も、新型コロナウイルスの感染予防の観点から、定員に60名の制限を設けました。多くの方にご参加いただきたいところですが、唯一、残念なことでした。今後も新型コロナウイルス感染拡大状況を見ながら、多くの方にご参加いただけるよう努めてまいりたいと考えていきます。

### 今後の計画

今後も公開講座の実施を予定しています。地域の方の生涯教育をお手伝いする手段のひとつとして、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

担当部門 : 社会連携センター

連絡先 : 電話 059-340-1927 メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp

## 6-3 四日市市民大学 一般クラス

### 活動の目的と経緯

四日市市は、毎年市民向けに「四日市市民大学」を開講しています。例年、5コース程度が開催され、そのうちの1コースを本学が担当して、企画・運営に当たります。2022年度は「書にいそしむ秋の夕べ～コロナ禍に海外に想いを馳せて～」といったテーマで開講しました。講師は、四日市大学に設置する2つの学部(「総合政策学部」と「環境情報学部」)に所属する者が均等になるよう配置しました。内容については、各国バランスよく関連する本の中から、一般の方が読みやすい本を課題本として講義を行いました。

### 活動内容と実績

回次・日程	題目・講師・課題本
第1回	【ヘミングウェイに触れてみる】環境情報学部 講師 樋口晶子
10月7日	『嵐のあとで』アーネスト・ヘミングウェイ
第2回	【ようこそ中国語の世界へ！—複眼的思考への誘い—】 四日市大学情報センター 館長・総合政策学部 教授 加納 光
10月14日	『中国語はおもしろい』新井 一二三
第3回	【芥川、メンヘラを詩で昇華させ】総合政策学部 准教授 高田晴美
10月28日	『芥川龍之介全集 8』芥川龍之介 『澄江堂遺珠』芥川龍之介 など
第4回	【英文学で考える日本の「戦後体験」】総合政策学部 教授 富田 与
11月4日	『浮世の画家』カズオ・イシグロ 『戦争と芸術』飯田高誉 『絵を見るヒント』窪島誠一郎 など
第5回	【安心・安全なくらし ～地球環境と世界平和～】 四日市大学 副学長・環境情報学部教授 鬼頭浩文
11月11日	『一度読んだら絶対に忘れない世界史の教科書』山崎 圭一

総計94名もの受講者にご参加いただきました。参加者の年齢構成は40代以上となっており、70代が半分弱を占め一番多い年齢層となります。なお、男女比はほぼ同じとなります。

### 今後の計画

今後も、四日市大学のもつ資産を活用し、魅力のある講座を提案したいと考えています。また、できれば、受講者の年齢層を引き下げられるような方策を出して行きたいと考えています。

担当部門 : 社会連携センター(社会連携課)

連絡先 : 電話 059-340-1927 メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp

## 6-4 履修証明プログラム

### 活動の目的と経緯

四日市大学では、広く社会人の皆様に大学教育を開放し、教養・スキルの向上、また生きがいの創出などに貢献しています。平成 21 年度から導入した「履修証明プログラム」は、大学の正規授業や公開講座などを組み合わせて、地域の方々が体系的な知識・技術等を習得できる教育プログラムです。どのプログラムも週に 1～2 日の通学で、1～2 年で修了が可能です。本プログラムを修了した方には大学から、学校教育法の規定に基づくプログラムであることを示した履修証明書(単位や学位を証明するものではありません)が交付されます。

### 活動内容と実績

令和 4 年度は以下の 6 コースを開設しました。

四日市学プログラム
地域リーダー養成プログラム
社会調査の基礎修得プログラム
文化論プログラム
IT ・データサイエンス入門プログラム
SDGs のための環境保全学習プログラム

令和 4 年度の修了者はありませんでしたが、平成 29 年度には、1 名が、「地域リーダー養成プログラム」を修了され、履修証明書を交付しました。当該受講者は、「地方自治論」、「NPO 論」、「コミュニティ論」、「人権論」、「地方議会論」などの講義で、地方自治の現状と課題を学ぶ一方、「地域防災」や「コミュニティ論」といった現地実習を含む講義では、若い学生に交じって活動され、「防災士」の資格も取得されました。

### 今後の計画

履修証明プログラムは、研究資源を活かし一定の教育計画の下に編成された体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラムです。目的・内容に応じ総時間数 60 時間以上で設定されるようになりました。このプログラムの修了者には、学校教育法に基づく履修証明書を交付します。詳しくは、大学のホームページ(TOP > 生涯学習 > 履修証明プログラム)をご覧ください。

担当部門 : 教育・学生支援部教学課

連絡先 : 電話 059-365-6599 メール : kyomu@yokkaichi-u.ac.jp

## 6-5 社会人を受け入れる教育プログラム

### 活動の目的と経緯

四日市大学は正課教育に広く社会人を受け入れる方針で、社会人入学制度、科目等履修生制度、聴講生制度を定めて運用してきました。これまでに多くの社会人の皆様がこれらの制度を利用されています。

### 活動内容と実績

#### 1. 社会人入学(学士号取得)

「きちんと学び直して自分を高めたい」「仕事や子育てがひと段落し、新しいことにチャレンジしたい」等のニーズに応えるため、広く社会人に対して高等教育機関で学ぶ場の提供と講義の開放などを行い、学習機会の拡充のために設けられた入試制度です。

##### ○社会人入学のポイント

- ・「入学金」と「4年間の学費」の半額免除 ・履修や演習登録時にカリキュラムサポートを実施
- ・「総合政策学部」では5年から8年を在学期間とする「長期履修制度」を実施

##### ○出願資格等

1. 最終学歴が高等学校卒業以上の方又は文部科学大臣の定める大学入学資格を有する方
2. 満23歳以上の方
3. 社会人経験を有する方

##### ○選抜方法

- ・事前課題文(600字～800字)の提出、書類審査及び面接の総合判定

※詳しくは四日市大学入試広報室にお問い合わせください。TEL 059-365-6711

#### 2. 科目等履修生

生涯学習に対するニーズに応えるため、科目等履修生の受け入れを行っています。学外の社会人などに特定の科目受講を許可するものです。一つ又は複数の科目を選択でき、単位修得が可能です。

##### ○出願資格等

- ・大学入学資格を有する方又はこれと同等以上の学力を有すると認められる方。
- ・選考は面接(前学期、後学期の2回募集を実施)。
- ・試験に合格し単位修得の認定を受けた場合は、必要に応じて単位修得証明書を交付します。

#### 3. 聴講生

生涯学習に対するニーズに応えるため、聴講生の受け入れを行っています。学外の社会人などに特定の科目聴講を許可するものです。但し、聴講生は科目等履修生とは異なり、単位修得はできません。

##### ○出願資格等

- ・大学入学資格を有する方又はこれと同等以上の学力を有すると認められる方。
- ・選考は面接(前学期、後学期の2回募集を実施)。

### 今後の計画

今後も地域に貢献する大学として、学び直しや教養・スキルの深化などの生涯学習を目指す社会人の皆様に、大学教育を積極的に開放します。

担当部門 : 教学課

連絡先 : 電話 059-365-6599 メール : kyomu@yokkaichi-u.ac.jp

## 7-1 四日市大学研究機構 関孝和数学研究所

### 活動の目的と経緯

本研究所は数学，数学史，数学教育及びその周辺に関する研究・調査を推進し，大学，社会の発展に寄与することを目的として，2009年4月に発足しました．所長は上野健爾(京都大学名誉教授)，副所長は森本光生(上智大学名誉教授，元国際基督教大学学務副学長)，松本堯生(広島大学名誉教授)，小川東(本学名誉教授)の3名が務めています．2022年度は所長，副所長を含み20名の研究員・客員研究員が在籍しています．

### 活動内容と実績

#### A. 研究員による2021年度の科研費(代表者)は

- ・森本光生「東アジア数学史より見た建部賢弘の数学の研究」(コロナ禍による延長)
- ・小川東「関孝和の数学の革新性に関する研究：方程式論を中心として」(コロナ禍による延長)
- ・斎藤憲「近代以前の幾何学における図版の研究」

の3件です．

#### B. 数学史関係では「数学史京都セミナー」を通年にわたって開催し，オマール・ハイヤーム(楠葉隆徳)，『起術解路法』(田中紀子・小川東)，ボンベリ『代数学』の継続的講読ほか，個別の研究発表を行いました．

#### C. 昨年度に続き，オンライン形式で「SKIM (Seki Kowa Institute of Mathematics) レクチャーズ」を開催しました．

第5回 2022年06月11日(土) 13:00-14:00：小林龍彦氏「和算と算額」

第6回 2022年09月11日(日) 13:00-14:00：寺尾憲二氏「数学切手で楽しむ」

第7回 2022年12月11日(日) 13:00-14:00：鳴海風氏「『塵劫記』はノーベル賞級の論文？」

第8回 2023年3月12日(日) 13:00-14:00：森本徹氏

「1823年 Kazan，その前後と東西南北；幾何学を巡って」

### 今後の計画

2022年も引き続きオンライン形式で「SKIM (Seki Kowa Institute of Mathematics) レクチャーズ」を開催します．

第9回 2023年6月11日(日) 13:00-14:00：中井保行氏

「塵劫記 過去から未来へ，京都から世界へ」

第10回 2023年09月 上野健爾氏(詳細未定)

第11回 2023年12月 斎藤憲氏(詳細未定)

第12回 2024年03月 (詳細未定)

詳細および参加ご希望の方は関孝和数学研究所ホームページをご覧ください(参加無料です)．

担当部門 : 研究機構 関孝和数学研究所

連絡先 : 電話 059-365-6712 メール : yuro@yokkaichi-u.ac.jp

### 活動の目的と経緯

人口減少社会に突入した日本は、これまで人口増加を前提に作ってきた様々な「公」の仕組みの大きな見直しを迫られています。

この見直しのためには、地域における市民参加を通じて、これまで「公」を担ってきた行政の役割を根本的に再検討するとともに、今後の人口減少社会において「公」を再構成する道筋を明らかにしつつ、「新しい時代の公」を担う首長、公務員、議会議員、各種地域団体等の役割の明示を行うことにより、なによりも、「新しい時代の公」を「担い得る」人材・組織が「育つ」ことが必要です。

公共政策研究所は、各自治体が多様な地域性を有することを前提に、各自治体が多様な地域課題の解決を通じて「新しい時代の公」を形成していく取り組みに対して、学内の人的資源を動員して支援を行い、もって「公」の一般理論化を目的として平成21年10月に設立されました。

### 活動内容と実績

令和4年度は、いずれも前年度より引き続き、三重県市町総合事務組合より受託した「ワンステップ研修（前期）講師派遣業務」と、碧南市(地域協働課)より受託した「碧南市市民協働推進事業」の合計2件を実施しました。

また、本研究所の研究員は、今年度も、三重県や四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、尾鷲市、東員町などの三重県内の自治体のみならず、知多市、岩倉市、長久手市、東近江市など、多くの県外の自治体でも、要請を受けて講演や現地指導等を行いました。これまで本研究所の研究員が各地の自治体で実施してきた事業が、相応の評価を受けているものと思われます。



本研究所の研究員による講演等の様子

### 今後の計画

引き続き着実に事業を受託していくとともに、講演や現地指導なども可能な限りお引き受けするなど、各自治体の政策形成に資する取組みを継続していく予定です。

担当部門 : 研究機構

連絡先 : 電話 059-340-1927 メール : yuro@yokkaichi-u.ac.jp

### 活動の目的と経緯

水質汚濁や大気汚染といった公害問題が解決され、快適な生活環境が取り戻せたはずでしたが、温暖化或いは脱炭素といった、新たな問題が生じ、さらに生物の種数並びにその量の激減に直面し、将来的には我々の食糧問題さえ生じかねない事態に至っています。

それらの原因もまた人為的なものですが、正確な情報が提供されていないことも大きな問題とされます。

四日市大学周辺には、里山としての自然がまだ多く残されています。本研究所では、この地域の動植物の現状を把握記録すると共に、環境保全、自然保護、またバイオ資源の可能性について取り組みます。さらに、その成果を情報として、また教材として発信することで、地域への貢献を目指します。

### 活動内容と実績

今年度の研究所の活動は、幾つか計画されたにもかかわらず、昨年度と同様にコロナ禍の影響もあり、必ずしも十分に実施できませんでしたが、幾つかの報文をまとめ、大学論集を始め公表でき、その結果については対外的にも良好な評価を得られました。

論集にまとめたものは、次のとおりです。

- ・ 長良川における外来大形珪藻 *Cymbella janischii* (A. W. F. Schmidt) De Toni について (小川東・田中正明)
- ・ 珪藻類の細胞容積の簡易算出法 (小川東・田中正明)
- ・ 三ツ又池 (愛知県弥富市) のプランクトン相について (牧田直子・田中正明)

また、観察、体験会としては、三重ジュニアドクター育成塾・観察実験講座の観察会を実施しました。

### 今後の計画

四日市近郊の水田、或いは溜池の生物相調査を継続する予定です。

担当部門 : 研究機構

連絡先 : 電話 059-340-1927 メール : bio@yokkaichi-u.ac.jp



## 7-4 四日市大学研究機構 環境技術研究所

### 活動の目的と経緯

環境技術研究所では、地域からの依頼による大気や水質等の環境調査研究、環境シミュレーション分析、廃棄物の処理やリサイクル技術に取り組み、地域社会や環境保全への貢献を目指しています。

身近な問題としては廃棄物不法投棄による地下水汚染、干潟の消失による海岸生物の減少、北勢地方の河川や伊勢湾などの水質汚濁の進行、プラごみ問題といった状況が起こっています。

具体的な事例としては、海蔵川、十四川、鎌谷川などの河川調査、焼却灰の鉛・フッ素等含有量低減化、リンの回収率向上等の技術開発などを実施しました。また、砒素の簡易分析法の河川・井戸・ヒ素除去装置への適用、楕円型方程式の数値解法等をいたしました。

### 活動内容と実績

**論文発表**としては①Masaaki Takahashi, Yukimasa Takemoto, Katsumi Iida : **Technique of Phosphorus Recovery from Dehydrated Sludge by Incineration, Earth & Environmental Science Res & Rev, 2022, Volume 5 Issue 2, 2022, 44-50**

②武本行正、高橋正昭、寺澤爵典 : **2次元楕円型方程式のC言語を用いた有限差分近似解法, 四日市大学論集, 35-2, 令和4年度(2023年3月)** などがあります。

#### 環境技術開発での共同研究の推進 (令和4年度)

- ・活水プラント(株)・・・高機能メタン発酵装置による資源化技術の開発、簡易ヒ素除去装置開発
- ・(財)三重県環境保全事業団・・・四日市市内河川の水質汚濁や発生源調査に関する共同研究
- ・岡本土石工業(株)・・・バイオマス(木材等)の焼却灰中の有害物の溶出防止技術の開発などを受注し、調査・分析を行いました。

#### 地域連携による環境調査活動の推進 (令和4年度)

市内の鎌谷川(地元西山町自治会からの要望)の中流域の窒素汚染、海蔵川(県地区市民センターより依頼)上流部畜産排水汚濁、十四川(富田地区自治会等との共同調査)中流部の有機汚濁などの河川の水質調査を実施し、可能な事例は環境系学会報告や英文雑誌投稿等をいたしました。また、三重ゾニエアドバイザー育成塾の観察実験講座では河川水質の分析評価という題目で小中生8名に実習させました。

### 今後の計画

上記の調査研究をより発展・深化させて、地域に貢献していきたいと考えています。市内の大矢知・平津産廃跡地のダイキソ類汚染その後が継続調査されていない問題があり、地元自治会と連携して事業団に調査を依頼し、周辺地域でダイキソ類4.3ピコグラムが出ました。翌年(令和5.1.18)には市役所と県庁大気・水環境課調査により、1.3ピコグラムが出ました。構成パターンではOCDDが多く農薬起源とのこと。

担当部門 : 研究機構・  
環境技術研究所

担当教員名 : 武本行正

連絡先 : 電話 059-340-1639

メール :

takemoto@yokkaichi-u.ac.jp



## 7-5 四日市大学研究機構 地域農業研究所

### 活動の目的と経緯

農業はわたしたちの生活を支える基盤産業です。農業分野には、耕作放棄地の急増、里山の荒廃、獣害などの解決すべき課題も多く残されている一方で、AI や IoT などの技術の導入による新しい成長産業としての可能性も期待されています。

四日市大学研究機構地域農業研究所は、四日市大学地（知）の拠点整備事業の支援を受けて実施された 1 人 1 プロジェクトや特定プロジェクト研究などで得られた研究成果のうち、農業分野に関する内容をさらに発展させ、地域農業の振興をはかるための調査研究を行うことを目的に設立されました。



竹林間伐材を用いて製造した  
土壌改良資材の散布実験

### 活動内容と実績

地域農業研究所では、地域の農業が抱える課題について調査し、地域と農業を振興するための方策について考えています。

一昨年度、四日市大学の「特定プロジェクト研究」として認定された「北勢地域における森林価値再発掘と里山圏資源循環モデルの構築」が今年度で最終年度を迎えました。本特定プロジェクト研究では、農林業を支える豊かな森林・里山の再生を目指した研究活動を実施しました。奥山・里山での野生動物調査、里山の健全度調査、獣害の現状調査、竹林間伐材の活用法検討などの取り組みを行いました。本特定プロジェクト研究で得られた研究成果は地域連携フォーラムで報告されました。本特定プロジェクト研究の実施にともない、研究員の増強など研究所の組織体制が大幅に強化されました。本特定プロジェクト研究のなかで実施した研究については、プロジェクト期間終了後も各教員で継続していくことにしています。また、本特定プロジェクト研究のなかで新たに発見された課題のうち一部は、特定プロジェクト研究として新規申請を計画しています。



竹林間伐材の施用効果を調べる  
ための実験



水田でのイネの生育調査

### 今後の計画

次年度からは、特定プロジェクト研究「北勢地域における森林価値再発掘と里山圏資源循環モデルの構築」を実施するなかで発見された課題を軸とした新しい特定プロジェクト研究を計画しています。

担当部門 : 四日市大学研究機構 地域農業研究所

連絡先 : 電話 059-340-1614 メール : zumi@yokkaichi-u.ac.jp

## 活動の目的と経緯

ロータリーは、地域社会のボランティアから成る世界的なネットワークです。  
世界中の事業・専門職務のリーダーや地域社会のリーダーであるロータリーの会員は、人道的奉仕活動を行い、職業における高い道德基準を奨励し、世界中で友好と平和を築くために尽力しています。

## 活動内容と実績

### ◆四日市大学留学生への支援

学業優秀で経済的理由による修学困難な学生に対して教育支援として奨学金授与と日本語弁論発表会への後援



### ◆四日市大学ローターアクトクラブのスポンサークラブとして支援

2015. 7. 10 設立の四日市大学 RAC 活動への支援を行い、当クラブとの共同奉仕活動を実施

写真：【伊坂ダム早朝クリーンウォーキング】

早朝よりウォーキングをしながら清掃活動を実施



### ◆青少年交換事業の実施

国と国との関係を育み、平和な世界を築くというロータリーの世界的使命により、海外に於いて一年間の貴重な体験を通して、異文化交流、国際交流を深め、国際理解、国際親善を促進し明日の指導者である青少年を育成するための交換学生事業を実施



### ◆あさけプラザ図書館への児童図書寄贈

図書館開館以来 30 年以上毎年児童図書を寄贈

『四日市北ロータリークラブ文庫コーナー』を開設していただき本とふれ合い読書を楽しむ環境の整備



### ◆北星高校への支援

成績優秀で学習意欲のある生徒を対象に、地域社会に貢献する人材育成のため特別奨学金を授与

## 今後の計画

今後とも継続し、新たな活動を展開出来ればと考えています。

担当部門 : 四日市北ロータリークラブ

連絡先 : 電話 059-363-0456 メール : ynrc@vega.ocn.ne.jp

## 8-2 NPO法人市民社会研究所

### 活動の目的と経緯

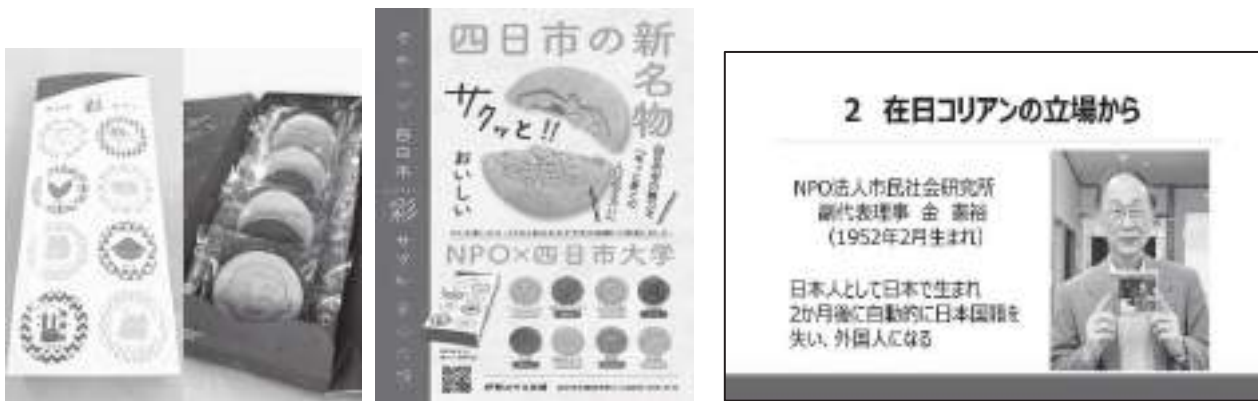
NPO 法人市民社会研究所は、2004 年 11 月に設立された NPO で、①公共社会を担う個人としての市民の成長（市民教育）、②誰にも居場所のある社会づくり（社会的包摂）、③市民活動団体の連携による力強い市民セクターの形成を目指しています。四日市大学 4 号館に本部事務局を賃借し、全体で約 20 名のスタッフのうち大学内で 1 人が働いています。四日市大学卒業生をこれまで 6 名雇用し、現在も 2 名が常勤職員として働いており、そのうち 1 名は事務局長として活躍しています。

### 活動内容と実績

市民社会研究所の仕事は、大別すると①～④です。NPO の活動が大学生の成長や学習の支援につながるようにしたいと考えています。

- ① 市民教育：住民の人権学習会支援、ディベート、現代社会研究会など
- ② 課題を抱える若者の就労支援：北勢地域若者サポートステーション、伊勢おやき本舗
- ③ 市民活動の支援：NPO の支援、市民活動センターの指定管理など
  - \* 公益財団法人ささえあいのまち創造基金の事務局
  - \* NPO 法人みえ NPO ネットワークセンターの事務局
  - \* 東海市民社会ネットワークの事務局
- ④ ①～③に関する調査研究

平成 30 年度に松井ゼミ（当時 3 年生）と連携して開発した、四日市みやげの「四日市彩サブレ」は、令和 4 年度も市内のじばさん、四日市市総合会館、ばんこの里会館等で販売し、好評を博しています。令和 3 年度は新たに「みんなの和プリン」の開発も行いました。また四日市大学の授業協力等も行っており、令和 4 年度は NPO 論の授業で「外国人の人権（オールドカマー）」の協力を行いました。



### 今後の計画

市民活動のネットワークと大学との繋がりを生かし、よりよい地域づくりを目指します。

担当者：総合政策学部 特任教授 松井真理子

連絡先：電話：059-352-0010 メール：ssk21ww@yahoo.co.jp

## 8-3 一般社団法人 四日市大学エネルギー環境教育研究会

### 活動の目的と経緯

一般社団法人 四日市大学エネルギー環境教育研究会(以下、当会)は、「環境教育」「農福連携事業」「地域循環型社会づくり(里山保全)」「研究地で有機農業」の4事業を深化させ継続しながら、子どもから大人まで地域問題改善に取り組むための、社会貢献事業を行っています。

### 活動内容と実績

【環境教育】永年、継続しているESD環境教育は、公的機関、児童館や学童保育所の教育分野には、多くの児童らに関わりました。特に、子どもたちに「自然の大切さ」を伝えるため、ビデオの制作をしました。また、干潟の清掃活動を行い、ごみを通してごみが人間の生活から出たものであることに気が付き、さらに、ごみが生き物にどのような影響を与えていて食物連鎖の怖さも伝えました。

また、あらゆる国民生活、産業活動を支える基盤となるエネルギーについても、足下のエネルギーを取り巻く環境も大きく変化しています。これからの将来を担う若い世代が、エネルギーや関連する諸問題に関心を持ち、理解することが重要であり、将来の発展・持続的な成長を果たすことから、地域エネルギー教育フォーラム(中部経済産業局主催)にて、三重県における事例を発表しました。

【農福連携事業】NPO法人風の家、生活支援者(15名と関係者7名)らと年11回(筍ほり・畑作業・工作)を、通年通り実施しました。対象者は机上での作業が多いなかで、畑仕事は自然に触れ合うことができ、苗の植え付けから収穫までの自然に触れ合うことで自身の成長・生きがいにつながっています。常に自然(異常気象)と土づくりや害虫駆除など、大変なことが多いなかで自然を感じ大きく成長します。

【研究地で有機農業】当会は、四日市市の堂ヶ山では、5年継続の水田に竹粉や有機物を撒き「糖度全国トップ(日本有機普及協会)」を収めました。また、これらのノウハウを持ち得て、各方面より有機農業の問い合わせがあります。桑名市農業委員会の研究畑を提供・研究成果を出します。その他も朝日町で有機農業研究地での研究協力。四日市農業高校や三重大学学生にも協力します。

【地域循環型社会づくり(里山保全)】当会に、①八郷地区里山保全協議会(10名)と②竹資源活用協議会(11名)の2つの協議会が活躍しています。①の協議会では八郷地区の竹林地権者の土地(萱生町・山城町で約一町整備済)の竹林整備が終わり成果を出しています。竹林は継続して手入れをしないとすぐに繁茂する厄介物であります。②の協議会では、竹を利用して「竹テント」をつくり啓発を試み、地域イベントなどで活用したいと息込み、果敢な取り組みをします。

### 今後の計画

上記の各部門を発展的に持続させる問題を抱えています。これらの重要性を鑑みて、取組に一步一步発展的・啓発・拡大に進める努力をしていきます。

担当部門 : 一般社団法人 四日市大学エネルギー環境教育研究会

連絡先 : 電話 059-363-1414 メール : info@yokkaichi-ene.com

## 8-4 四日市東日本大震災支援の会

### 活動の目的と経緯

東日本大震災の被災地の復興と国内外の大規模災害の支援を目的に、四日市大学が中心となって、大学生・高校生・一般市民とともに活動しています。東北では、2011年5月からは泥かきなどの災害ボランティア活動を、2012年からは仮設住宅の交流支援を行ってきました。また、東北だけでなく、継続的に災害発生した場合には災害ボランティア活動をしています。

### 活動内容と実績

支援の会では、2022年3月までに合計78回、延べ参加者は2,473人になりました。2011年の設立以降、東紀州水害で被害を受けた三重県紀宝町、内水氾濫の被害を受けた四日市市内、京都府亀岡市の水害被害、関東・東北豪雨、熊本地震、西日本豪雨、台風19号災害で被害を受けた長野市でも災害ボランティアを派遣しました。

<2021年度の被災地支援活動>

全く活動ができませんでした。

<2022年度の被災地支援活動>

第76回；2022年11月25～27日：三重県防災対策部との連携で宮城県東松島市でサロン活動

第77回；2023年1月6～9日：三重県教育委員会との連携で宮城県・福島県で防災学習

第78回；2023年3月17～19日：支援の会単独事業として宮城県東松島市でサロン活動

<四日市市消防団（機能別団員）活動と防災士資格取得>

防災士資格を取得または取得予定の大学1年生5名が2022年11月1日に入団し、継続して活動している13名とあわせて18名になりました。少しずつ、四日市市内の地域・学校での防災イベントで啓発活動ができるようになってきています。また、定期的に大学内で炊き出しや避難所運営の訓練を行うようになりました。2022年度の活動は、新入団5名の応急手当指導員資格研修、防災士養成研修講座（地域科目「地域防災」の一部）における普通救命講習の指導、消防出初式での活動などでした。

### 今後の計画

コロナの感染状況を考慮しながら、被災地の支援活動と、近隣で発生する災害ボランティア活動を再開します。また、三重県・四日市市などと連携し、三重県における地域防災についても貢献する予定です。

**担当組織**：四日市東日本大震災支援の会

**連絡先**：環境情報学部教授 鬼頭浩文 電話：059-340-1902 メール：kito@yokkaichi-u.ac.jp

## 8-5 メディアネット四日市

### 活動の目的と経緯

従来、日本の良き風土として生活、労働、文化を共有してきたコミュニティや、誰もが自由に発言・表現・交流できる広場が消滅していこうとしています。

そんな現状を打破すべく、四日市には数多くの市民活動団体の皆さんが、地域の課題などを解決すべく、また地域をより元気にすべく活動を続けています。

発足 15 年を迎えるメディアネット四日市は、そんな四日市での活動の数々を、幅広い年齢層の地域の皆さんに知っていただくべく、映像作成を続けています。

また近年はインターネットやスマホなどの普及により、誰もが気軽に映像を制作でき、そして映像を多くに人々に見ていただける環境が整っています。

そんな時代にあってメディアネット四日市では、より多くの地域の皆さんに、自身の活動や思いを伝えられるような映像を作っていただけるよう、地域の映像作り文化の普及に向けた活動を継続的に行っています。

### 活動内容と実績

当会は四日市の行政や市民活動団体からの依頼を受けるなどの形で、四日市のイベント・文化・伝統・各地域のまちづくり、催し物等を紹介する映像を作成しています。

そして作成した映像は、当会のホームページ (<http://medianet-yokkaichi.com>) や映像ポータルサイト「よっかいち映像広場 (<http://yokkaichi.tv>)」などのインターネットを通じて情報発信し、より多くの地域の人々に四日市のよさを知っていただくべく取り組みを行っています。

近年のコロナ禍で活動を自粛していますが、少しずつ、後高齢者問題、新しい機器を使ったドローン講習会等を行っています。

### 今後の計画

高齢者の地域活動の一環として、メディアネット四日市が存続し、より多くの地域を愛する人々の活動が映像を通じて地域づくりに貢献できるよう普及を図っていききたいと思います。



担当部門 : メディアネット四日市 : 代表 久保田 領一郎

連絡先 : 電話 : 090-7957-0928 メールアドレス : kubota@m5.cty-net.ne.jp

## 【四日市大学教員 令和4(2022)年度 研究テーマ一覧】

### 総合政策学部

連番	氏名	令和4(2022)年度研究テーマ
1	岩崎 恭典	地域自治組織形成方策の検討
2	岩崎 祐子	「おもてなし経営」「地域を拓く未来企業」に関する研究
3	岡 良浩	地域を拓く未来企業に関する研究
4	奥原 貴士	①IFRS採用日本企業における開発資産の資産性に関する実証研究 ②組織再編成功企業の財務特性－のれんと財務特性に着目した実証分析－
5	加納 光	「李儼と三上義夫の書簡の研究」プロジェクト
6	小泉 大亮	地域型運動を実践している高齢者グループの調査研究
7	小林 慶太郎	①地方自治体におけるセクシュアルマイノリティ政策の導入と展開 ②基礎的自治体におけるミニ・パブリックス導入の課題と可能性
8	高田 晴美	岡本かの子の欧州体験とかの子文学への影響
9	鶴田 利恵	東アジアにおける自由貿易協定や地域連携協定の今後
10	富田 与	①戦後日本における表現の自由と戦争画(継続) ②米州における麻薬対策のメタファー ③ウクライナ紛争の発生に関する考察
11	永井 博	「戦陣訓」の研究(家族国家観との関連について)
12	中西 紀夫	非核三原則についての一考察
13	Felipe Ferrari	西田幾多郎とアンリ・ベルクソンにおける空間
14	松井 真理子	①食品ロス削減に向けたコレクティブ・インパクトの研究 ②生活困窮・社会的孤立に対応する多様な居場所と地域ぐるみの支援のあり方の研究 ③「市民の勇気」に関する研究
15	三田 泰雅	①アカデミック・スキル修得のための教材開発 ②地方都市における家族形成
16	Gordon Rees	What is Living Newspaper Readers Theatre and can it be used effectively in oral presentation classes?
17	若山 裕晃	アメリカ野球におけるマイナー選手に対するメンタルトレーニング指導の実態調査

※2022年3月31日付取りまとめ



## 【四日市大学教員 令和4(2022)年度 研究テーマ一覧】

### 環境情報学部

連番	氏名	令和4(2022)年度研究テーマ
18	池田 幹男	①高速フーリエ変換のデジット逆順に関する研究 ②音響インパルス応答計測のための信号に関する研究
19	大八木 麻希	①名古屋市内のため池の池干しが水質に与える影響 ②三重県北勢地区の農業用水路(マンボ)の水質特性
20	片山 清和	AIを用いた食品売り上げ量予測
21	鬼頭 浩文	災害支援体制の持続と、地域防災に中高大生が貢献する仕組みの地域社会への実装
22	黒田 淳哉	三重県北部地域の海岸部光害調査
23	関根 辰夫	ファイルメーカーによる学生や教職員の大学生活向上のためのカスタムソリューションの開発
24	田中 伊知郎	樹上生活していた人類祖先の行動の解明
25	千葉 賢	①伊勢湾の海洋ゴミの研究 ②伊勢湾の貧酸素水塊発生現象の解明 ③英虞湾の水質予報の研究
26	野呂 達哉	①都市域における外来中型哺乳類の分布とその要因 ②コウモリ類の音声によるモニタリング手法の開発
27	樋口 晶子	①ヘミングウェイにおける人称指示代名詞の使用について ②CLILを導入した授業に対する学習者の意識分析
28	廣住 豊一	①竹林間伐材由来の資材を連用した農耕地における土壌物理化学性の経年変化(継続) ②温泉水を用いた養液土耕袋培地栽培システムによるトマト果実高糖度化の効果検証(継続) ③発芽・育苗時の気温・湿度の変化がトルコギキョウの生育に与える影響
29	前川 督雄	①情報環境構造解析法の開発研究 ②人工生態系の進化シミュレーション
30	牧田 直子	①湖沼に生息するプランクトンの調査研究 ②水田に生息するプランクトンの多様性について
31	武藤 和成	①異文化理解教育について ②学校で問われる英語文法問題の調査研究
32	吉山 青翔	「エコロジズム」構造の哲学的考察 ～比較環境思想史の視点から～
33	李 修二	①1920～30年代の国際経済会議と国際連盟 ②両大戦間期の国際主義について

※2022年3月31日付取りまとめ

資料A 学外委員会での活動(委員会名・役職名のリスト)

資料は四日市大学に委嘱届の提出されたもののみを示します。この他に学外組織の委員を務めている場合もあります。

令和4年度

氏名	派遣先	内容
岩崎 恭典	四日市市文化まちづくり財団	評議員
	桑名市	桑名市空家等対策協議会委員
	桑名市	桑名市安全・安心推進協議会会長
	桑名市	桑名市地域づくり支援制度アドバイザー
	鈴鹿市	鈴鹿市地域づくり支援制度アドバイザー
	亀山市	亀山市まちづくり基本条例推進委員会委員長
	亀山市	亀山市環境未来創造会議委員
	伊賀市	伊賀市地域活動支援事業審査会委員長
	伊賀市	伊賀市自治基本条例検討委員会委員
	松阪市	松阪市総合計画評価委員会会長
	伊勢市	伊勢市ふるさと未来づくり推進委員
	尾鷲市	尾鷲市情報公開審査会委員
	尾鷲市	尾鷲市個人情報保護審査会会長
	東員町	東員町地域公共交通会議委員・座長
	朝日町	朝日町地方創生推進会議委員
	三重県	みえメディカルバレー推進代表者会議委員
	三重県	三重県環境審議会会長
	三重県	三重県南部地域活性化推進協議会委員
	三重県	犯罪のない安全で安心な三重のまちづくり推進会議会長
	三重県	三重県事業認定死因議会議委員
	愛西市	愛西市小中学校再編検討会会長
	北名古屋	北名古屋市行政改革推進委員会委員長
	岩倉市	岩倉市自治基本条例推進委員会委員長
	大口町	大口町行政経営審議会委員長
	川西市	川西市参画と協働のまちづくり推進会議委員長
	鹿児島県	鹿児島県コミュニティ・プラットフォーム整備促進事業アドバイザー
	日本私立大学連盟	学長会議幹事会委員
国際環境技術移転センター	評議員	
三重大学大学院	教育学研究科教職大学院運営協議会委員	
四日市北ロータリークラブ	会員	
小林 慶太郎	四日市市	四日市市総合評価方式事後評価委員会委員長
	四日市市	四日市市多文化共生推進市民懇談会座長
	四日市市	四日市市公契約審議会会長
	四日市市	四日市市美術展覧会運営委員会委員長
	四日市市	四日市市市民文化事業審査会委員長
	四日市市	市立四日市病院コンビニエンスストア運営事業者選考委員会委員
	四日市市	図柄入四日市ナンバー普及促進協議会委員
	亀山市	亀山市地域ブランド推進協議会委員
	伊賀市	伊賀市行政事務事業評価審査委員会委員
	三重県	三重県男女共同参画審議会専門委員・第3部会長
	三重県	三重県農村地域資源保全向上委員会委員
	三重県	三重県人権施策審議会委員
	三重県	三重県市町総合事務組合退職手当審議会委員
	三重県教育委員会	三重県教育改革推進会議会長

氏名	派遣先	内容
小林 慶太郎	三重県地方自治研究センター	副理事長
	菰野町	菰野町公正入札調査委員会委員
	朝日町	新庁舎建設基本構想策定委員会委員
	東員町	東員町教育委員会事務事業評価委員会会長
	東員町	東員第一中学校建設基本設計業務プロポーザル審査委員会委員長
	長久手市	長久手市みんなでつくるまち条例検証会議委員
	四日市とんてき協会	代表理事
	C T Y - F M	番組審議委員会委員長
鬼頭 浩文	四日市市	四日市市民大学企画運営団体審査会審査委員
	四日市港管理組合	四日市港管理組合公正入札調査委員会委員
	四日市公害と環境未来館	四日市公害と環境未来館協議会副会長
	三重県四日市地域防災総合事務所	三泗地区1市3町広域避難に関する検討会議委員
松井 真理子	四日市市	四日市市男女共同参画審議会委員長
	四日市市	四日市市人権施策推進懇話会委員長
	四日市市	四日市市立図書館協議会委員
	四日市市	四日市市障害者施策推進協議会委員長
	四日市市	四日市市ごみ減量等推進審議会委員長
	亀山市	亀山市協働事業選定委員会委員長
	亀山市	亀山市市民参画協働事業推進補助金選定委員会委員長
	亀山市	亀山市地域活性化支援事業補助金選定委員会委員長
	亀山市	亀山市環境未来創造会議委員
	三重県	三重県多文化共生推進会議委員
鶴田 利恵	四日市港管理組合	四日市港港湾審議会委員
	三重県	三重県固定資産評価審議会委員
	三重県	三重県開発審査会委員
	高齢・障害・求職者雇用支援機構三重支部	運営協議会委員
	名古屋市	名古屋市上下水道事業経営有識者会議メンバー
	名古屋港管理組合	名古屋港審議会委員
	名古屋港管理組合	臨港緑地条例等指定管理者選定委員
	国土交通省中部地方整備局	中部圏広域地方計画有識者会議委員
加納 光	三重県国際交流財団	評議員
永井 博	四日市市	四日市市文化功労者選考委員会委員
	三重県立四日市商業高等学校	学校関係者評価委員
	三重県立いなべ総合学園高等学校	学校関係者評価委員
富田 与	四日市市	四日市市立三重西小学校コミュニティスクール運営委員会委員長
	三重県	三重県政府調達苦情検討委員会委員
	三重県立北星高等学校	学校関係者評価委員
三田 泰雅	四日市市	四日市市情報公開・個人情報保護審査会委員
	四日市市	四日市市選挙管理委員会委員
	桑名市	桑名市都市計画審議会委員
	いなべ市	いなべ市情報公開・個人情報保護審査会委員
	桑名・員弁広域連合	桑名・員弁広域連合情報公開審査会委員
	三重県	三重県男女共同参画審議会委員
	三重県	みえ森と緑の県民税評価委員会委員

氏名	派遣先	内容
奥原 貴士	三重県	三重県公益認定等審議会委員
	享栄学園	調査委員会委員
岩崎 祐子	四日市市	四日市市教育施策評価委員会委員
	四日市市	四日市市優秀技能者選考委員会委員
	四日市市	四日市市雇用優良事業所選考委員会委員
	四日市市	四日市市「男女がいきいきと働き続けられる企業」選考委員会委員
	桑名市	桑名市市政功労者表彰審査委員会
	伊勢市	伊勢市指定金融機関選定委員会委員
	三重県	三重県信用保証協会外部評価委員会委員
	三重県	三重県国民健康保険運営協議会委員
	三重県	三重県公私立高等学校協議会委員
	三重県立石薬師高等学校	学校関係者評価委員
岡 良浩	四日市市	四日市市開発審査会委員
	四日市市	四日市市入札監視委員会委員
	鈴鹿市	鈴鹿市都市計画審議会委員
	桑名市	桑名市上下水道事業経営審議会委員
	三重県	みえメディカルバレー企画推進会議委員
	三重県	三重県公共事業評価審査委員会委員
	四日市商工会議所	四日市商工会議所選挙管理委員会委員
	三重県建設技術センター	三重県市町公共事業評価審査委員会委員
	四日市市地場産業振興センターじばさん	評議員
小泉 大亮	愛西市	愛西市健康なまちづくり事業推進委員会委員
千葉 賢	四日市市教育委員会	E S D 推進会議 委員
	三重大学	大学院生物資源学研究所附属練習船教育関係共同利用運営協議会委員
	三重県	三重県海岸漂着物対策推進協議会委員
	三重県	伊勢湾再生連携研究事業委員
	三重県	三重県環境審議会水質部委員
	愛知県	愛知県海岸漂着物対策推進協議会委員
	岐阜県	岐阜県海岸漂着物対策推進協議会委員
	中部整備局	伊勢湾流域別下水道整備総合計画検討委員会委員
牧田 直子	桑名市	桑名市環境審議会委員
大八木 麻希	三重県	三重県環境審議会委員
	三重県	三重県環境影響評価委員会委員
	三重県	三重県公共工事等総合評価意見聴議会委員
	三重県	三重県国土利用計画審議会委員
野呂 達哉	国土交通省中部地方整備局	庄内川特定構造物改築事業における環境影響 助言

#### 委 嘱 委 員 等 (職 員)

氏名	派遣先	内容
小田 久洋	公益財団法人日本高等教育評価機構	評価委員
	公共職業安定所	公正採用選考人権啓発推進員
伊藤 直司	三重県サッカー協会	理事・学生連盟委員長
	東海学生サッカー連盟	監事
佐藤 信行	桑名市テニス協会	役員
黒田 司	三重県野球協議会	強化育成部会 副部長
	東海地区大学野球連盟	常任理事 (三重県担当)

## 資料B 学外での講演活動等

令和4年度

氏名	派遣先	内容
岩崎 恭典	桑名市	松ノ木地区まちづくり協議会勉強会 講師
	川越町	まちづくり研修 講師
	玉城町	幹部職員・議員研修 講師
	三重県	持続可能な地域コミュニティづくり推進検討会議 講師
	三重県市町自治会館組合	市町新採用職員研修 講師
	(社)三重県地域連携センター	産・官・学のまちづくり研修 講師
	愛知県岩倉市	自治会長・区長研修 講師
	滋賀県	市町管理職研修 講師
小林 慶太郎	四日市市	令和4年度四日市市熟年大学専攻課程 講師
	四日市市人権啓発企業連絡会	2022年度四日市市人権啓発企業連絡会総会講演 講師
	三重県公立小中学校事務研究会	第2回研修講座 講師
	三重県立鳥羽高等学校	総合学科2年次「鳥羽学」 講師
	岩倉市	職員協働研修 講師
鬼頭 浩文	四日市市	令和4年度四日市市熟年大学教養課程 講師
	四日市市	令和4年度四日市市民大学 講師
	四日市市	令和4年度校長研修会 講師
	四日市市立中央小学校	令和4年度三泗地区女性校長教頭会研修会 講師
	四日市市三重北小学校	地域と共に学ぶ防災教室 講師
	四日市市立西朝明中学校	持続可能な街づくりについて（SDGsに関わって、街づくりのための提言） 講師
	三重大学	現代社会理解特殊講義（三重の産業） ゲストスピーカー
松井 真理子	四日市市	令和4年度四日市市熟年大学教養課程 講師
	亀山市	職員協働研修 講師
千葉 賢	三重県	伊勢湾・川・森のクリーンアップ大作戦参加団体交流会 講師
	四日市商工会議所	四日市を美しくする会講演会 講師
	ごみゼロ社会推進あいち県民会議	ごみゼロ社会推進あいち県民会議研修会 講師
永井 博	四日市市	令和4年度四日市市熟年大学専攻課程 講師
牧田 直子	三重大学	令和4年度三重ジュニアドクター育成塾 講師
廣住 豊一	三重大学	令和4年度三重ジュニアドクター育成塾 講師
大八木 麻希	三重大学	令和4年度三重ジュニアドクター育成塾 講師
	国際環境技術移転センター	令和4年度高校生地球環境塾 講師
	暁中学校	高松干潟フィールドワーク 講師
野呂 達哉	三重大学	令和4年度三重ジュニアドクター育成塾 講師
黒田 淳哉	三重県生涯学習センター	みえアカデミックセミナー2022 講師
富田 与	四日市市	令和4年度四日市市民大学 講師
加納 光	四日市市	令和4年度四日市市民大学 講師
高田 晴美	四日市市	令和4年度四日市市民大学 講師
樋口 晶子	四日市市	令和4年度四日市市民大学 講師
田中 雅章	四日市市	よっかいち人権大学ステップアップ講座 講師
	四日市市	職員向け「メディアリテラシー研修」 講師
伊藤 直司	NHK津放送局	第27回三重県サッカー選手権大会決勝 解説者
	三重テレビ放送㈱	eisu杯 第33回三重県ユース(U-15)サッカー選手権大会決勝 解説者
黒田 司	三重テレビ放送㈱	2022年度全国高等学校野球選手権大会三重大会 解説者

四日市大学社会連携報告書 2022 年度(令和 4 年度)版

制作 四日市大学社会連携センター